

スカウティングとキャンプ

●B-P 最後のメッセージより

神様は、一生幸福で楽しく暮らせるよう、私たちをこの世界に送ってくださったのだと私は信じています。幸せというのは、お金持ちになったり、単に仕事上で成功したり、思い通りのわがままができることではありません。幸せになる第一歩は、子どもの間に健康で強い体しておくことです。そうすれば、あなたがたが大人になった時お役に立つことができ、人生を楽しむことができるのです。自然研究というものは、この世界が、美しいものや素晴らしいもので満ち満ちていることを教えてくれるでしょう。それは神様が、そういう世界をあなたがたが喜んで受け入れるように贈ってくださったことを示しています。あなたがたの得たもので満足し、それを最もよく生かすようにしなさい。

このように「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「仲間」「友情」等を素晴らしい自然から得なさいと言っています。それに気づくこと、感じること、意識すること、そして育むことができるのが自然の中で過ごすスカウトのキャンプです。

また、「班」は人を分けるという意味の他に、仕事を分けるという意味があります。班員各自が自分の分担された仕事を責任をもって実行する、または実行するために努力する。それで班に貢献でき、そして班のレベルが上がっていくことで、他の班との競争に臨む・・・ことは、子ども達の特性を活かした教育方法であり、それが社会人としての基礎の意識を築いていくことは十分に承知していると思います。その効果が顕著に表れるのが班のキャンプなのです。班長のリーダーシップ、班員の任務に対する意識と責任感、班としてのモチベーションと団結力。そしてライバル班との競い合い。このような環境をどう整えていくかが隊長&指導者の腕の見せどころです。

キャンプでは、実に多種多様な作業があります。居住環境をいかに快適にするか、食事をいかに美味しく作るか、それらをより良いものにするために考え、工夫し、何度も実行して確実なものにしていく。そのプロセスを経験することができるのがキャンプなのです。

その結果として、わたしたちが求める「(心が)豊かなキャンプ生活」が獲得できるのです。

設営と炊事に追いまわられては、そんな余裕はありませんからねえ。

●スカウトキャンプの大前提

・キャンプは、スカウティングの中で少年がもっとも喜ぶものである。(AIDS TO SCOUT MASTERSHIP)

→それには **まずは、魅力があって楽しいこと。**

これがキャンプを行う大前提で、もっとも重要なポイント。この気持ちをスカウトが持たなければ、指導者が理解しなければ、そして共にそれを作り上げなければ意味がない。その上で・・・

●キャンプがもたらしてくれるもの

・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、(創意工夫で) 必ず解決することができる。

・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えられる機会であり、健康をもたらしける

・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

(SCOUTING FOR BOYS)

キャンプには、

- ・キャンプそのものが子どもの成長をもたらす
- ・自然の中での生活がもたらす
- ・グループによる活動、共同生活がもたらす
- ・新しい体験がもたらす

そんな効果がある。

(信州大・平野吉直教授)

→ここに、スカウティングのキャンプの意義が見い出せる。**これを知り、確認し、実践により自ら体験すること**が野営法研究会を行う意味。

→指導者としては、具体的には次の6つを体得する

- ① **自らすすんでキャンプを楽しむこと**
- ② **求められる精神・意識を知ること**
- ③ **キャンプの規律を知ること**
- ④ **キャンプの効果を身をもって体験すること**
- ⑤ **すべてのことの根拠を考えること**
- ⑥ **キャンプをすると自分自身(心も精神も身体も)が元気になること**

これをこの野営法研究会で是非とも伝えてください。

※ところで、指導者のためのスカウティングキャンプとは・・・これは、あくまで「指導者」のためのスカウトキャンプである。ということは、はじめに先に述べた「**楽しく魅力あるスカウトキャンプ**」がありきということを忘れてはいけな。このスカウトキャンプをいかに効果的に行うか、安全に行うか、教育的側面を盛り込むか等の運営をもたらすか・・・を考えていくためのテキストなのである。

生活・健康調査書及び個人情報保護に関する同意書

記入日 年 月 日

ふりがな 氏名		所属	団 隊	生年月日 年 月 日	性 別 男・女
住所	〒 電話 ()			保護者の承認 私は医療行為に伴い生ずる個人情報を同行の指導者へ伝えることに同意します。 (保護者署名) _____	
緊急連絡先	氏名	参加者との続柄	電話	携帯等緊急用	

身長	cm	体重	kg	コンタクトレンズの使用	有・無
----	----	----	----	-------------	-----

I. この1か月の健康状態(該当項目の番号を○で囲み、_____部分には所要事項を記入する)

- 健康である
- 病気をしたが(学校、仕事を)休むほどではなかった
- 病気のため休んだことがある 病名_____いつ頃_____日数_____日

II. 1. 該当する症状(□にチェックしてください)

- | | | |
|--|--|---|
| ① ☐ 便秘をしやすい | ② ☐ 下痢をしやすい | ③ ☐ 胃痛や腹痛をおこしやすい |
| ④ ☐ 風邪をひきやすい | ⑤ ☐ 熱がでやすい | ⑥ ☐ 扁桃腺が腫れやすい |
| ⑦ ☐ 目が充血しやすい | ⑧ ☐ 鼻血が出やすい | ⑨ ☐ 出血すると止まりにくい |
| ⑩ ☐ 疲れやすい | ⑪ ☐ 貧血を起こしやすい | ⑫ ☐ とくとき頭痛がする |
| ⑬ ☐ 皮膚が弱い(太陽・虫・他) | ⑭ ☐ 喘息発作を起こすことがある | |

2. 該当項目を○で囲み、所要事項を記入してください

- ① 薬品アレルギー (ある ・ ない)

発症薬品名 []

症状 []

- ② その他のアレルギー(食べ物・花粉等) (ある ・ ない)

発症原因 []

症状 []

- ③ 常時服用している薬 (ある ・ ない)

病名 []

薬品名 []

※ 消毒薬(ヨード剤、アルコール、プール消毒槽など)による、発赤、皮膚炎等の既往のある方は記載してください。

※服用中の薬がある場合は、薬局でもらう薬剤情報の紙を持参してください。

III. その他、生活・身体上のことで留意することがありましたらお書きください。

IV. 今期インフルエンザ等について

- 今期インフルエンザにかかったことが (ある ・ ない)
- 今期インフルエンザ予防ワクチンを (受けた ・ 受けていない)
②で受けたと答えた人は、受けた時期を記入してください。 () 年 () 月 頃
- 麻疹の予防ワクチンを (受けた ・ 受けていない)
③で受けたと答えた人は、受けた時期を記入してください。 () 年 () 月 頃

V. この1週間の体温を記入してください。

毎日____時に計測。

土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※ ①この調査書は2枚作成(コピー可)。キャンプ出発集合時に派遣隊長へ1枚提出してください。

※ ②また、健康保険証のコピーを作成し、このコピーと共に携行してください。

※ ③健康状態に不安のある場合は、予め医師の診断を受け、参加できることを確認してください。

※ ④未成年のスカウト・参加者は、保護者の確認が必要です。(右上の欄に署名を)

※ ⑤キャンプ出発前1週間前からの健康状態を確認してください。

県外旅行申請書

平成____年____月____日

ボーイスカウト_____連盟御中

申請者_____地区_____第_____団

団委員長_____㊤

_____隊長_____㊤

下記の通り県外旅行を行いますので申請いたします

氏名又は グループ名			参加人数	スカウト 指導者	名 名
連絡先	〒 _____ TEL () FAX ()				
引率責任者	氏名		年齢	才	
			役務		
	連絡先	TEL ()	登録番号	-	
目的			訪問先 県連盟	連盟	
				連盟	
期間	平成____年____月____日～平成____年____月____日まで(____日間)				
行動予定	期間	訪問先	行事・行動予定	連絡先	
	～				
	～				
	～				
	～				
	～				
記事					

※以下県連盟処理欄

県外旅行通知

上記の通り本県連盟の加盟員が貴県を旅行しますのでご通知いたします。

平成____年____月____日

ボーイスカウト_____連盟

事務局長_____様

ボーイスカウト_____連盟

事務局長_____㊤

※注：団の控えとしてコピーをとり、本紙一部のみ県連盟へ提出のこと。写しの返送はいたしません。

野営地の採点表

	0 最悪	2 悪	4 可	6 良	8 優	10 理想的	ここは？
位 置	市街地	街はずれ	郊外住宅地	農 地	原野・牧場	山 林	
排 水	湿 地	溢水の可能性あり	排水緩慢	1方向に排水良	2方向に排水良	3方向に排水良	
土 質	不潔な堆土	粘土質	岩石や砂礫	砂 地	砂利層に砂	砂利層上にローム土	
地 表	はだか地	雑 草	刈り株	耕 地	牧草・野草	芝生地	
地形1	急斜面	平 地	10～12%傾斜地	5～8%傾斜地	ゆるやかな傾斜地	平坦に近い傾斜地	
地形2	川の中州 崖の下	ガレ場 谷間	河原	砂浜	風を遮るものがない広場	林間の広場	
樹木1	な し	低木・藪	若木・雑草	20～30年の造林地	古い造林地	原始林	
樹木2	樹液を出す木	密集した針葉樹	密集した広葉樹	程よい間の針葉樹	程よい間の広葉樹	高くて程よい間の広葉樹	
水 利	な し	遠 い	急坂運搬	良質な水道遠 い	良質な水道近 い	良質な水道至 近	
水浴場	な し	安全な流れと速さの川	澄んで安全な湖沼	プール	シャワー	風呂・温泉	
燃 料	な し	多少拾える	立ち枯れあり拾える	自由に拾える	近くで購入できる	その場で購入できる	
公 衆	無理解	物見高い	行楽者多し	理解ある人あり	親切で理解あり	無 人	
有害物	毒虫・毒蛇	蚊・ぶゆ	人を刺す虫	は え有害植物	ほとんどなし	な し	
交 通	遠く不便	便利だが遠 い	不便だが近 い	自動車がかるうじて入る	自動車が入り、あまり遠くない	自動車が安全に入り、近い	
買い出し	な し	遠く品数少ない	近く品数少ない	遠いがスーパー	近 いスーパー	至近にスーパー	
病院	な し	休日休みの診療所	休日開業の診療所	個人医院 総合病院	救急受入の個人医院	救急受入の総合病院	
それ以外の条件							



◆ テントの種類

● テントの種類と用途（屋根型テントとドームテント）

ここでは、ボーイ隊の班で使う「班用テント」を中心に見ていきます。

現在市販されているテントは、大きく3種類に分けられます。昔ながらの屋根（家）型テントとドームテント、そして、主に緊急時に使用するツェルトです。ちょっと前に流行ったロッジ型テントは、今は構造がドームテントに近くなってきていますので、ここでは敢えてドームテントに分類します。

さて、屋根型テントには数種類あって、家型テントと呼ばれる「指導者用テント（ジャンボリーテント；略称「ジャンテン」）」と2本のポールで建てる「班用テント（A型テント；Aテン）」、この屋根型テント系のメインはAテンで、これはボーイスカウトやガールスカウト、そして一部の公立の青少年施設や愛好家以外では、今やほとんど使われなくなっています。まさにラストボーイスカウトになってしまいました。

さて、このボーイスカウトが頑なに守っている「家型テント」ですが、そのメリットはどこにあるんでしょう？ 我々 OGE 隊の中もAテン派とドーム派がいます。そこで、Aテン派にそのメリットを聞いてみました。下表 2-1-1 をご覧ください。

・・・とまあ、どちらの言い分にも一理あるけれど、やはりドームのほうが説得力がありますね。ちなみに私はドーム派（笑）。これまでの経験からドームテントの方が快適に過ごせると思っています。

これはボーイの「班」を対象にした5～6人用のテントに対するものです。これより少ない人数では、ほぼ100%がドームタイプのテントになっています。というかAテンは6～8～10人用しかないの

です。ですから選びようがありませんし、残りのテントもツェルトの様な基本的にエマージェンシー用のテントです。

もちろん、4人の班で6人用のAテンを使うことには収容人数の点では問題ありません、Aテンを既に持っているのであればね。でも、これから購入をするのであれば、例えば、ボーイ隊の4人の班で、今後の増員が見込めないとするとAテンにするかドームにするか悩むところ。スカウト数が少ないということは、購入予算が少ないことと搬送人員が少ない・・・に直結していますからね。

4人の班のテントを選ぶとなると、ボーイスカウト・エンタープライズのカタログで比べると、6人用Aテン（写真下左）にするか、モンベルのムーンライト7（写真下右）にするかという選択肢になります。カタログには他にエコテントとスクートがありますが、まあそれは好みでどうぞ。

エンタープライズには申し訳ないですが、私は後者の2つは選びません。「エコドーム」は、重い、室内高が低い、入口の敷居部分が高い、スリーブタイプである（P.000を参照）、形状が風に弱そう・・・です。「スクート」は重すぎるし、もろ風に弱い構造、この重量をあの高さまで吊り下げるのはボーイ年代のスカウトでは結構つらいでしょうね。あ、あくまでカタログを見た感想です。実際に使ったことはありませんから。

それから、今は女子のスカウトが多く入って来ていますから、キャンプでは、テントは男女別に用意しなくてはなりません（チャイルドプロテクションにも明記されていますが、っていうか男女別テントは指導者の常識ですよ。たとえばカブであってもです）。つまり6人班だからといって6人以上用の大型テントを選択することはないのです。今後は1班にテント2張は標準となっていくでしょう。

●表 2-1-1 家型テントとドームテントの比較

比較項目	家型テント	ドームテント
耐風性	○丈夫で、あれだけの綱とペグで地面に留めているんだから風に強い。 ▲家型テントは、風を面でがっちり受け止めるのものですごい風圧がかかる。そのためには相当な力を幕体、綱、ペグでそれぞれ保持しなければならないから高い強度が必要。つまりひとつひとつが丈夫で重い。それに風に負けてしまった場合にペグが抜けて飛んでいくこともあり大変危険。	○今のドームは構造工学に優れた形状であり風を受け流す。その点でもジャンテンはドームテントに敵わない。強風時にはドームでもペグや張り綱は必要だけど、綱の太さも数とも少なくてもいい。
居住性	○棟が高いので居住性が高い、また幕布が厚いので特に長期キャンプで安心。あの安心度はドームでは得難い。▲棟は高いが、三角屋根のため上方空間は狭い、小柄なスカウトではリッジポールに届かない。厚い帆布で構成されているので、頑丈というイメージで安心感はあるが、何もそんな厚い壁で囲わなくなっているといいでしょう。	○同じ収容人数であれば居住性はドームテントの方が格段に上である。自然との一体感はドームに敵わないよ。
グラウンドシート	○グラウンドシートが縫い付けられていないので、濡れや尖ったもの等への対処がしやすく自由度が高い。フロアは長方形なのでコットを置くにはちょうど良いだろう。	▲フロアは縫い付けられて防水処理がされているので、地面が水浸しになっても大丈夫。 ×コットを置くには脚の先でフロアシートを傷めない工夫が必要だな。
設営	○きちんと張るためには、テントの構造を知らなければならず、幕にテンションをかけるのに総合的な知識がいるところに教育的意義がある。	○ドームテントは早く張れるのでプログラムに時間が割けるし、張ってからからも簡単に移動もできるので、風向きの変化にも、植物へのローインパクトにもすぐに対応できる。

◆ テントを選ぶ

では、実際にボーイ隊やカブ隊、ベンチャー隊が使うという設定で選んでみましょう。家型テントについては、選択の余地がないので、ここではドームテントについて書いていきます。

●ドームテントについて

さて、「ドームテント」って一言で言っていますが、ドームテントは実にいろいろのタイプがあります。

まず、テントを分類してみましょう。

「目的」別に、山用か、雪山用か、我々のような低山用か、ファミリー用か、オートキャンプ用か…となります。次に、構造や重量で見ると、ポールの数やポールの組み合わせ方、設営のしやすさ（つまり固定キャンプ用か移動キャンプか）でも分けられます。他には、収容人数別もあるし、素材別でも分けられます。

ということで、テントを選ぶときに、選択要素にプライオリティをつけると

①目的 ②収容人数 ③構造・重量 ④その他
となります。では、それぞれについて見ていきましょう。

①目的

テントの購入にあたっては、使用「目的」は最も大切な要素となります。数あるドームテントも、その使用目的により大きく区分されていきます。

例えば冬山用のテントは、夏のボーイ隊の低地でのキャンプでも使えます・・・が、まず暑くて快適に過ごすことはできません。ファミリーキャンプ用の安価な大型ドームテントでX（クロス）ポールのもは、低地&平地のスカウトキャンプの様な長期のキャンプには良さそうですが、実はボーイ部門のキャンプには不適だったりします。好天であれば問題はでないでしょうが強風・荒天だと、大きさが大きなのでテントの耐性に問題が生じて安全が確保できないという事態が生じることがあります。（写真右下）

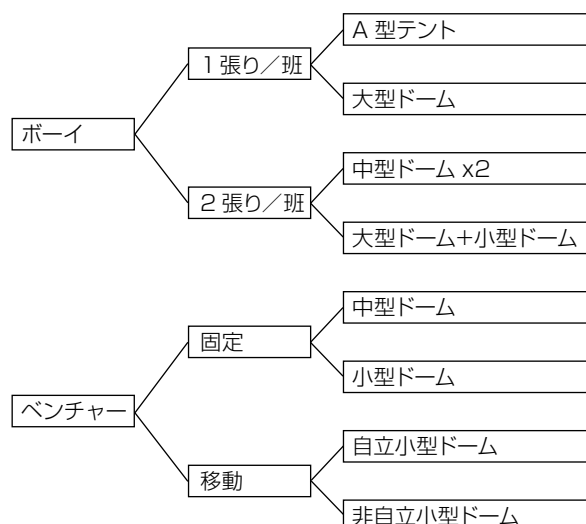
ボーイスカウトの場合は、「教育」のためのキャンプであり、基本的に過酷な条件下はまずあり得ません。そのフィールドは、ある程度整備されたキャンプ場だったり、多少野性味が残る山林でしょう。その低地の平地で、隊指導者の管理の下での固定キャンプが主となります。また、今はテントを含め荷物はキャンプ地まで車で運ぶコトがほとんどとなっていますので、重量よりも丈夫さや機能性に目を向けた方がいいかもしれません。ただ、スカウトの数は毎年変わるのである程度の増減に対応しなくてはなりません。男女比も変わります。ここをどう考えるかは、団・隊で判断する必要があります。

ベンチャースカウトの場合は、固定キャンプもありますが、バディでの移動キャンプも行います。移動キャンプでは、必要なギアを全て背負って移動するわけですから、ギア1つ1つの重さをでき



るだけ減らさなくてはなりません。もちろんテントもです。しかし、移動キャンプの目的にもよりますが、軽さだけを追求して居住性を犠牲にするようなことは避けた方がいいです。十分な睡眠がとれない結果、疲労が蓄積して「楽しいスカウティング」ではなくなってしまいますから。

ここに簡単な分類図を示します。まあ、このレベルだったら示さなくたって解っているとは思いますが・・・。



●図 2-1-3 部門別キャンプ形態と使用テント

②収容人数

テントが1張りだろうが2張りだろうが、班員全員が寝られ、かつ荷物が置けるスペースがあることが必要です。メーカーが表示しているものは、一昔前であればJIS規格に基づいた表示となっていました。JIS規格が1999年に廃止となったため、今ではメーカー独自のものとなっています。JIS規格では、「人+荷物」で200cmx55cmですので、ボーイ隊のキャンプのように個人装備をテントに入れる場合は、入れ方や整理の仕方にもよりますが、表

●表 2-1-2 家型テントと代表モデルのスペック比較

区分	型式	人数	価格	重量
家型テント	A型6人用	6	¥106,000	22.4kg (本体) (ポール・ペグ・ハンマーは別)
ドーム	エコテント	5	¥102,900	12kg
	スクートDX6	5	¥75,600	9kg (11.6kg フレーム含む)
	モンベル ムーンライト7	5(7)	¥62,800	7.8kg (8.4kg ペグポール含む)



◎指導者用テントに寝てみた。
普通体型が3人、FAT系3人の成人男性だと、このようにいっぱい。荷物を置くスペースはなかった。

示人数分の人を収容するのは難しいですね。よく「実質人数＝表示人数－1 (or－2) 人」と言っているのはこの名残です。

まあ、人数が多くてフロア（テントの床）に荷物のスペースがとれないときは、それこそ創意工夫の出番です。そのひとつとして前室があるタイプを選んでおくこともいいですね。

ということで、多くのメーカーでは、そのメーカー独自の人数表示をしています。その表示人数には個人装備のスペースも含まれているようですが、統一の規格ではないので、必ずシップ等で現物を確認（実際に荷物を置いて寝てみる）してからご購入ください。

③構造・重量

「目的」のところでも述べましたが、ボーイの「班」で使うテントとなると大型ドームが選択肢に入ります。しかしながらテント本体が大きく立ち上がるわけですから、風の影響を大きく受けることになります。そこでしっかり考えていたいただきたいのが強度と安全性です。ポールが2本のクロス(X)ポールタイプでは、強風時にポールが耐えられなくなり、ポールの湾曲の形状が保てなくなったり折れたりします。(写真左。実体験としては、台風の下では、あの頑丈そうなジャンテンのポールでさえも台風の時はあっさりとかぶってしまいました。当時需品部で売っていた「アドベンチャーテント」の樹脂ポールも簡単に折れてつぶれていました。)風の力は予想以上に凄いのです。ですから、大型ドームテントの場合は、できればメインのXポールに補強のサブのポールが組み合わされたものやジオデシック構造のもの、1つの大型ドームではなく中型2つにすることをすすめます。ちなみにこの台風のときが私の個人テント「モンベル・ムーンライト5」のデビューだったんですが、何の問題もなく快適に過ごすことができました。(ちなみに私はスカウトの避難引率で体育館にいましたので。これは残留組による報告です。)

耐風性については、ポールの数だけでなく本体とどのようにジョイントさせるかによってもその強度が異なります。これについては「ポール」のところでも述べます。

また、中型小型のテントであれば、入口の位置やフライシートの形状についても考えなければなりません。これについてはP.000を参照してください。

次に重量ですが、前ページで「重量よりも丈夫さや機能性に目を向けた方がいいかもしれません」と書いていますが、これはまずAテン以上の重さのテントはない！ということと、固定キャンプの場合でも、今では班装備を背負って歩いてキャンプ地に行くことはほとんどなくなって、ほとんどが車による搬送で、実際にそれを持って歩く距離は、ごく短距離であるということ・・・との考えか

らのものです。しかし、ボーイ隊の現状を見ると女子の数が多くなっている、上級生の参加率が下がってきて小学生がメインとなっていること等を考えると、これらのスカウトでも取り扱える重さであることが大切な要素となります。さらに、ジャンボリーだと延々と歩くことになります。

そして「移動する」ことを考える必要があります。特にベンチャーローバーの移動キャンプの場合はできるだけ装備重量を軽くしたいのですから理解できますよね。装備の軽さはキャンプでの疲労を軽減することにダイレクトに繋がりますからね。

また、環境保護、つまり植物の保護の観点から、3日に1度はテントの位置を移動するようにと言われてます。それに、風向きによってテントの出入口の位置を修正しなくてはなりません。Aテンでは大変なこの作業ですがドームだとさほど難しくはありません。しかし、大型で重量のあるドームテントでは、転回・移動はそれでもけっこうめ面倒です。

従って、これらのことに対応するためには、必要な強度を保った上でできるだけ軽いモノであることが求められます。それはテントやポールの素材に大きく左右されてきます。これについては次で述べます。

●テントの生地素材

テントの素材に良く使われるのは化学繊維の「ナイロン」と「ポリエステル」です。昔は木綿やビニロン製のテントもありましたが、今はほとんど見かけません。

ナイロンは引き裂き強度に優れ、程よい伸縮性もあるのでテントをきれいに張ることができます。布の厚みは糸の太さのデニールという単位で表します。15デニールであれば、向こう側が透けて見える薄さのものとなります。ドームテントのウォール（本体）には50～70デニール、フライシートはそれよりもやや太く、フロアであれば100デニール以上のものが多く使われているようです。

ポリエステルは伸縮性には欠けますが、ナイロンよりも強く、紫外線による劣化も少ないのでフライシートに多く用いられます。ちなみにジャンテンとAテンは本体・フライともにポリエステルです。収縮性は必要ないので。

このほかにグラウンドシートにはPVC（塩化ビニール）が使われることがあります。PVCはほぼ完全防水で、しかも丈夫なのでテントのボトム（底）には最適ですが、重いのが難点です。

●テントの大きさ（サイズ）

①班・組で使うときは6～8人用

テントのフロア大きさは、班の人数構成、男女比にもよりますが、同性のみの班だと6～8人用のもの、男女混合班だとその人数比に合ったモノを選ぶことになります。

●表 2-1-4 シート素材の主な特長

素材	耐久性	強度	防水性	価格
ナイロン	強い。薬品力 ビ害虫に強い (日光やガスで 黄変する)	高強度	高い (耐水圧による)	高い
ポリエステル	引き裂きに強い、紫外線に 強い (長期間の使用 可能)	高強度(ナイ ロン以上)	高い (耐水圧による)	高い



◎比較的に安いのでよく使用されている某C社製テント(左・右)。強風の下では構造上このようにポールが当初の形状を保つことができなくなってしまう。

テントの大きさというと、すぐに「フロア（床）」の面積を思い浮かべてしまいがちですが、もちろんそれも大切ですが、ウォール（壁）の立ち上がり角度や天井までの高さにも注意してください。つまり、居住性です。テントは寝るだけでなく、雨の時はリビングにもなり、場合によっては食堂にもなります。2人用と6人用とでは、出入りに必要な高さも異なってきます。無理なく着替えができ、かがんで立っても無理なく出入りできる室内高はほしいですね。

テントの利用（就寝）人数表示は、「○人用」とか「○人相当」とか「キャパ○人」、あるメーカーでは「商品名の最後の数字が目安となる人数を表示」となっています。この人数ですが、だいたい荷物がなければこれだけの人数が寝ることができるという目安の人数のようです。更には昔のJIS規格のゆうに「この人数が寝られる」という広さであって、快適に寝られる広さであるとは限りません。しかも、この「快適」な広さの基準が人それぞれ違っているので、ショップ等で実際に目的のテントに横になってみて、個人装備をおいたらどうなるかを確認することが、納得するモノを選ぶポイントになります。ちなみに、OGE隊においては、2人分で1人が快適であると換算しています（人+個人装備）。5人用であれば2人（小数点以下切り捨て）、これ以上の大きさであっても最大3人で使っていますね。

ボーイ隊の班用テントとして使用することを考えると、実際の就寝人数は表示人数マイナス1～2人と考えてもらっていいでしょう。

カブであれば、ほぼ表示人数が収容できます。

②ベンチャーは2～4人用

ベンチャーやローバーとなると、活動が基本的にソロかバディかという単位となり、また、全てのギアを背負っての移動キャンプも視野に入れることが必要となるので、2～3人用のテントを選択することになります。

ベンチャーやローバーでも長期に亘る移動キャンプだったり、雪中キャンプだったりをする場合は、快適性をとるか重量を取るかをの選択を迫られることになります。少しでも軽くすることを選んだ場合は、余分なスペースを作らないで規定の人数の通りモデルをチョイスすることがベストとなります。小さければ小さいほどポールも細く、布地も薄くできる → つまり「軽い」わけです。こういう場合、2人以上であれば足と頭を互い違いにして寝て、荷物は足下か頭の上に置き、マットは半身用にシマット代わりバックパックに足を突っ込んだりすることで、人と人との隙間が埋められて、寒い時期でも暖かく眠ることができます。（暑いときは、うっとうしいだけです・・・くさいし、くさいし、くさいし!!）

③登山用は1～2人用

登山をするのであれば、1～2人用のテントがいいと思います。それは単純な理由なのですが、山では限られたキャンプスペースに

たくさんさんのテントが立ち並びます。トップシーズンになるとテントがひしめき合っている状態なのです。小さいテントであればテントとテントの間にわずかなところにテントを何とか張ることもできますが、3～4人用ともなると、そのスペースを確保することはまずムリです・・・というワケです。

●テントの出入口

使うテントが小さいソロやバディのキャンプなら気にならないですが、班で使うテントとなると、出入口の位置や大きさ気になります。これもテント選びの大きなポイントになると思います。

一昔前のドームテントだと出入口が1つしかなくて、出入りするだけで、寝ている人には大迷惑になることがありました。Aテンやジャンテンは昔から出入口は2つありました。今は大型のドームテントであれば、対向する面にそれぞれ出入口があります。

出入口の大きさについては、小型のテントであれば座った状態で入りしますが、大型のテントだと立ったまま（屈んで）出入りするのが普通となっています。無理なく出入りできるもののがいいですね。屈んだときに気をつけなければならないのが、入口の下端（敷居）の高さです。これがフロア面から高いと、足をしっかり持ち上げないとつまずいてしまいます。

小型テントは座って出入りするわけですが、この場合も敷居が高いと出入りしづらくなります。また、小型テントの出入口の位置ですが、フロアの長方形の短辺に出入口があるモデルだと、ポールとポールの感覚が狭いので、当然、狭い入口しかとれません。出入しやすくするためには、その面をフルに使う、すなわち入口の上端が天井近くまでくことにになり、今度は雨が入りやすくなります。小型テントでは、長辺（ポールとポールが離れた面）に出入口があり、かつ出入口の地面からの角度が大きいものの方が使い勝手はいいと思います。

●ポールの素材と構造

ポールに求められる性能は、テントの形状を保ちつつ、風に対しては、柔軟性あるものとなります。Aテンやジャンテンと違って、ドームテントの場合は、テントそのものに柔軟性を持たせ、風の圧力を逃がすワケですが、その要となるのがポールなのです。

柔らかくて強度があり、戻り特性をもつ材質としては、スチール、FRP、アルミ合金などがありますが、それぞれ特長（一長両短）があります。（下表参照）

結論としては、アルミ合金（#7000系超々ジュラルミン）がいいでしょう。更に強度面を考えると、2本クロスだけではなくサブに1～2本あるものの方が気分的に安心できます。あ、サブといっても「補強」のためのサブですよ、フライの張り出し用のサブじゃないです。A型フレームやジオデシック構造のものであれば言うことはありませ

●表 2-1-5 テントポール用素材の主な特長

材質	特長
スチール	強度はあるけれど、重くて、柔軟性も低く、太い。そのためたわみが少なくても済む場所、ファミリー用大型ドームテントのサイドポールやキャンピーの支柱用に多く使われます。
FRP	スチールより軽量で弾力性があり、かつ安い素材なので、あまり重量をキャンプにしないエントリーモデルに使われています。また、ポールのジョイント部分が金具なので、スリーブに通すときに引っ掛かりやすい。
アルミ合金（ジュラルミン）	強度と柔軟性があり、軽量の素材。径も細くできる。段差なくジョイントできるので、スリーブを傷めることが少ない。但し高価であるため上級モデルに多く採用されている。

●テントは「建てる」「立てる」？

この表現は本によって様々です。この本では敢えて「建てる」を使います。テントはスカウトにとって野外での「家」ですから、建てるです。でも・・・「張る」が正しいんじゃないのかな。

ん。

ポールが少なくてもフライをきっちと張ってペグを打っておけば、それなりの強度は出るものです。そうは言っても2本ポールのクロス(X)だけでは安心・安全には心許ないです。大きいテントでXポールだけのものは、荒天時にはさっさとキャンプを切り上げて帰るか、避難できるところがある場合にしか使用できないと考えてください。

あ、これは6～8人用の大型ドームテントの場合であって、1～2人用の小型ドームであればXポールでも大丈夫でしょう。3～4人用の中型ドームでは、やはりサブポールがあるものやAフレームのものをすすめます。

●ポールを本体のジョイント

テントをたてるには、ポールをテント本体に取り付けなければなりません。その取り付け方法には、本体のスリーブ(筒)にポールを通す「スリーブタイプ」とフック等で本体をポールに吊り下げる「吊り下げタイプ」に大きく分けられます。

スリーブタイプはポールをつないでスリーブ(筒)の片側から入れ、入れたポール先を固定した上で、更にポールを押し込んでポールをたわませテントを建てます。基本的にクロスしているの、特に大型・中型テントでは2人で同時にその作業をしなくてはなりませんし、押し込む時に結構な力が必要となります。

一方、吊り下げタイプは、まずポールをたわませ、その両端をテント4隅に固定します。次に、センタートップのフックをポールの中央に掛けた後、上から順番にフックをポールに引っかけていきます(この順番はテントにより異なります)。スリーブタイプよりも簡単で1人でも建てられますが、例えばモンベルのムーンライト7の様な大型ドームテントの場合、カブのような低い身長だと、テントのセンタートップのフックをポールに取り付けることが難しくなります。

どちらが設営が楽かは、経験次第です。吊り下げ式の方が初心者やカブ年代には向いているかもしれません。

さて、大型ドームテントは風に弱いと前に書きました。全てのタイプがそうというわけではないのですが、スリーブ式でもフック式でもそれだけでポールに固定しているのであれば、風圧でフライやテント本体がたわむことで、スリーブやフックの接点(面)がずれてしまいます。そのズレが大きくなるとテントが本来の形状を保てなくなり、全ページの写真のようにつぶれてしまうのです。テントは正しい形を保つことで最大の保持力を発揮するよう作られています。テントは眠るだけでなく、悪天候時の避難場所にもなるのですから、この点にも注意することが大切です。その対策として、フックがずれない構造になっているもの、スリーブが伸びない素材になって



いるもの、モンベルのムーンライトシリーズのようにA型フレームで要所がゴムで固定されているもの等があります。

●スリーブタイプの問題

さて、ここでちょっと夏の炎天下のキャンプを考えてみましょう。夏の炎天下にテントに入った人はよく解っていると思いますが、テントの中は相当熱くなります。それを防ぐのがフライシートの役目(もちろん雨を防ぐことも、冬の寒さも)だとしても、それにも限界があるでしょう、だから熱いのはしょうがないじゃないですか……ん～、ちょっと待ってください! 正しく設計されたテントを適切な用途で使ったならば、そしてフライシートがちゃんと張ってさえあれば、中は耐えられない暑さにはならないはずです。

ではどうしてテントの中が耐えられない暑さになるのかを考えましょう。それは、太陽熱で熱せられたテントとフライの間にある空気の塊が熱を持って、それがテント本体の幕から中にモロに伝わるからです。「そんなことは知っているよ! 具体的にはどーゆーことなの?」

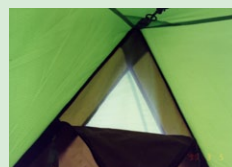
はいはい、お答えします。それは、テントとフライの間にある空気が、ポールを通すスリーブによって仕切られたコンパートメント(小部屋)になって閉じ込められてしまっているからなのです。

フライシートは、テントのスリーブに載せるように接して張りますね。つまり、テントとフライの隙間はスリーブによる壁ができて、そこに空気が密閉空間された小部屋を作ってしまうのです。つまり流れ出さないデッドエアです。そのため太陽熱はフライ通してデッドエアを熱し、その熱がテントの内部に伝わっていくわけです。その熱の伝導を防止するために、スリーブが途中で切れていたり、メッシュになっている等の工夫がされています。これであれば熱気が移動するため夏でもとりえず使うことができますね。

「冬であれば、このデッドエアによってテントの中が暖かくなっているじゃん」ということも考えられますが、その通りです。この場合はフルタイプの裾が付いた冬のフライ(スノーフライ)を使えばいいのです。これはフライの裾を完全覆うもので、裾から空気が入り込



◎写真左はスリーブ式(アライテント)。中はスリーブ+フックのハイブリッドタイプ(コールマン)。右は吊り下げ(フック)式(モンベル)。



◎ベンチレーター。写真左はウォールの上部にあるもの。右はウォールの下部にあるもの。

まないのであります。

一方、吊り下げタイプでは、基本的に遮る壁がないから、テントとフライの間を自由に空気は流れていきます。つまり、熱の籠りはスリープタイプに比べたら相当少なくなります。

暑い時期には、テント本体とフライの間に隙間を作って風を通すことは、キャンパーの常識とも言えますね。

※前述でフルタイプのフライのテントがいいとしていますが、いかに風の通り道が作られているかについてもチェックが必要です。

・・・と、ここまでは主に「夏」の話でした。みなさん「結露」ってご存知でしょうか？ 冬に家でストーブをガンガン焚いていると、窓ガラスの内側にびっしりと水滴（露）が付いていますよね。アレです。あれがテントの中でも起こるんです。テントの中の空気が、スカウトの息や身体から発散される水蒸気と体温で満たされたところに、テントが周りから冷やされると、外気と内気の間にある幕（布）に触れた水蒸気冷やされて露となるわけです。これの対策としては2つあるんですが、その1つが先に述べた「スリープタイプ」。このコンパートメントでデッドエアをためるんですね。要するに外気温が直接テントにつたわないために、結露がすくなくなるのです。もう1つの方法は次項の換気による方法です。

●メッシュの換気窓（ベンチレーター）

基本的には、充分に換気ができる「窓と扉」（ベンチレーター）があることが必要です。特に大型・中型テントでは扉を含めて4方向に、小型テントでも2方向にほしいところです。

出入口が2つあるテントでは、入口と出口は基本的に対向する面に設けられています。両方とも大きく開くのであれば換気上は特に問題はありません。しかし、例えば、真面目な新入隊員などキャンプに不慣れな人は、夜間の出入りの時にテントの扉を無意識に全部閉めてしまうことがあり、そういう場合に他にベンチレーターがあれば換気を確保できます。また、日本では昼と夜で風向きが異なるところが多いので、4方向にベンチレーターがあれば快適に過ごせます（いちいち風向きに合わせてテントに入口を移動しなくてもすみます）。

また、今派のテントはフルフライタイプが多くなっているため、テント本体（インナーテント）には、通気性を持たせたものも多くなっています・・・が、それでもベンチレーターは必要です。

なぜベンチレーターが必要かというと、人の息に含まれる二酸化炭素や水蒸気、身体から発散される熱や水蒸気、その他口臭や体臭などを素早く排出し、新鮮な空気を取り入れるためです。また、前項の「結露」の原因となる水蒸気と温度も下げることができます。

特に、酸素が不足したり、二酸化炭素の濃度が高くなりな

に気をつけてみましょう。もちろん一酸化炭素もです。一酸化炭素の方は、テント内で炭を焚くな、ガソリンランタンを灯すな、ストーブをつけるななど一般的に言われているので、安全意識がはたります。が、二酸化炭素には意外と注意を払われていません。息苦しくなるから程度の認識です。

狭いテントで寝ているとき、人の息に含まれる二酸化炭素がテント内に徐々に排出されます。呼吸によって酸素が消費され、二酸化炭素が増えます。空気中には酸素は約 20% ありますが、扉や窓を全部閉めきっていると、二酸化炭素はどんどん増えて、更に空気よりも重いので、テントの下の方、つまり寝ている人を包み覆っていくのです。そのため多くの人が寝ることによって必要な酸素が不足して(12% 以下になると) 窒息してしまうというコトが起こり得ます(いわゆる「酸素欠乏症」そう酸欠の原因)。二酸化炭素は普通の状態では 0.03% 程度しか空気中に含まれていません。それが 5% になると頭がボーッと、10% を越えると身体が震え耳鳴りがし、意識がなくなってしまうとのことです。(こんな濃度に達することはまずありませんが!) 最近のテントでは、ベンチレーターがボトムの辺りの低い位置についているものも出てきました。

もちろん、ベンチレーターがあっても、それが閉じられていたら意味がありませんが、特にドームテントでは密閉性がいいことから、きちんと機能するベンチレーターが必要となります。同時に、どの程度それを開けるかも知っておかなければなりません。これもテントによってまちまちですので、実際に使ってみて状況に応じた開け具合を研究してください。

また、窓やベンチレーターにメッシュの網が付いていれば虫が入ることを防止できます。虫がいるところで使用する場合は、メッシュ付を勧めます。冬山用は吹き流しのような形状で先が巾着のように絞れるようになっています。ちなみにメッシュはついていません。

私は、冬でも横窓のベンチレーションは半分以上は開けています。夏は全開です。(ちなみに使用テントは前述の「モンベルのムーンライト 5」です。P.42 下写真)

●テントの色

通常我々が使っているテントはアースカラー系の自然に溶け込む色合いのモノが多いですね。各社のラインナップもその傾向となっています。アースカラーは、身近にある自然物に似た色合いですから、目にも優しいですし、色による精神的なストレスもほとんどありません。自然の中でゆったりと安らぐために適した色合いです。

それに対して山岳用テントは、視認性を考えて、とにかく目立つことを第1に考え、赤系や黄色系の目立つ原色系の色づかいとなってい

●表 2-1-6 主なメーカーの（ボーイ班用？）ドームテントのスペック比較（重量・価格は付属品込み）

メーカー	型式	フライシート			テント本体			インナー Top 高さ	難燃 加工	ポール 材質*	全重量	価格
		厚さ*	耐水圧	UV	フロア厚*	耐水圧	フロアサイズ					
スノーピーク	ランドブリーズ 6	P75D	1,800mm	不明	P210D	1,800mm	300x300	H165	×	7001	9.7kg	¥62,800
コールマン	タフワイド ドーム 300	P75D	2,000mm	○	P210D	3,000mm	300x300	H190	不明	ジュラルミン	11.2kg	¥44,100
モンベル	ムーンライト 7	P75D	1,500mm	不明	N210D	2,000mm	280x280	H175	○	7071	8.4kg	¥62,800
小川テント キャンパル	スクート DX6	P75D	1,800mm	○	PVC	10,000mm	280x280	H180	不明	7001	11.6kg	¥86,100
ロゴス	プレミアムジオ ドーム 270-L	P 不明	1,700,mm	○	P 不明	3,000mm	300x300	H190	○	7075	10.0kg	¥36,399

* P：ポリエステル、N：ナイロン

* #7001,#7075 は、超々ジュラルミンの種類

ます。これは遭難した場合の捜索で発見しやすいからです。熊よけという話も聞いたことがありますけど・・・。

キャンプの目的がリラックス、リフレッシュなのであれば、真っ赤なテントの中では過ごしたくありません。かえって気分が悪くなってしまう。しかし、山に登るという相当のリスクを伴う行動をする場合には、こと色づかいについては視認性を最重視しなくてはならないのですね。(んー、だったら秋の紅葉時期にはどうすんだろ。紅葉と一体化しちゃうじゃないの?)

それと、ほとんど関係ないだろうけれど、虫を寄せ付けやすい色(赤系)、熱を吸収しやすい色(暗い系)、反射しやすい色(銀・蛍光色)ってのがあります。そんなのも考慮してみましょう。

●テントの防水

防水とは水を通さないこと、撥水とは水を弾くことをいいます。

テント生地の中でも、フライシートとフロアは、通常ウレタン樹脂やアクリル樹脂をコーティングして防水加工した上、外側に撥水処理が施されています。ただし、フライ付のテントでは、ウォール(本体)には防水加工が施されていない、撥水加工に留まっていることが多いようです。防水については、普通は上からの雨のことを考えていますが、それだけでなく地面の濡れへの対策についても考えなくてはなりません。

布状のモノを箱形にするのですから縫ったり溶かして接着するなどの加工が必要です。溶融加工は防水性が確保できますが、縫い合わせる場合は糸を通すための針穴があいてしまうので、そこから浸水が起きます。その穴を塞ぐものがシームシーリング剤です。チューブの液体状のものとシームテープがあります。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときには塗布しなおしてください。シームテープは、テープの片側が接着面になっていて、縫い目の上から覆うようにそれを貼って、アイロンで熱を加えて圧着することで防水します。

今のジャンテンやAテンのグランドシートは本体とは別になっており、PVCの布をバスタブ型に折って整形し、多少の冠水でも水が入り込んで濡れないように継ぎ目や織り目は溶融接着されています。ドームテントでは、生地素材はほとんどがナイロンでそれが糸で縫い合わされています。基本的にはシームテープで縫合面に防水処理をしています。フライシートのベンチレーター部やファスナー部分、ボトムシートの一部など、製造の都合上または構造上シームテープが施せない部分にはシームシーリング剤が充填・塗布されています。

多くの場合ウォールとフロアの縫い目には防水加工はされていないようです。有名メーカーのものであれば、購入した状態でも通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているよう磁状態では、縫い目から雨水が侵入することな

いとはいえないので、必要に応じて縫い目にシームシーリング剤(目止め液)を塗布してください。

このように、買う際には縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してあるか、それらが隙間なく溶融接着されているか、コーナーの立ち上がりの全ての縫い目にはシームシーリング剤の防水処理がされているかを確認します。これは大きなポイントとなります。

ただし、シームテープも完全ではありません。長年使っているうちにシームテープが剥がれてしまうことがあります。その場合は、アイロンを使って再度貼り付けるか、新たなシームテープを貼るかのどちらかになります。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときには塗布しなおしてください。

もちろん、メーカーに修理を依頼することも可能です。モンベル、スノーピークはほぼ全部の修理を受け付けてくれますが、外国のメーカーのものについては、修理をしてくれないモノもあります。スカウトであれば、プログラムの一環として、自分達でこれらの処理はしたいものです。

さて、テント生地そのものの防水性については、その強さを「耐水圧」で表しています。その値は、傘で500～1,000mmとされています。レインウェアなんかだと20,000～40,000mmなんでもものもあります。実際にこの数値がどのレベルを表しているかやその有効性については研究したことがないので、ここではいくつかの有名メーカーのカatalogスペックでテントの防水性を判断することにします。モンベルでは1,500～2,000mm、The North Faceでは1,500mm、スノーピーク3,000mm、コールマン2,000mmとなっています。トップメーカーであるこれらが採用して製品化しているのですから(もちろん実証しているんでしょうから)、このくらいあればよろしいでしょう。

防水で思い出すのは、10年ほど前のWB研修所のことです。ビーバーとベンチャーコースが併設だったため、参加者用にホームセンターで新たにコールマンのドームテントを購入しました。2日目から大雨になり、3日目の朝に参加者の1人がSOSを求めてやってきました。テントが水没したというのです。あわてて現場へ行くと、なるほど凹地に張っていたために水深約20cmほどの水たまりにテントが浮いていました。いや正確には浸かっていました。中はびしょびしょで悲惨な状態になっているだろうなぁと覗いてみたところ、中では参加していたOGE11が嬉しそうにゴロゴロとごろごろ回っているのです。

「???」

するとOGE11曰く

「ウォーターベッドですよ!」

・・・と。新品だったからでしょうが、全く水漏れ無し。完璧。コールマン恐るべしでした。



スノーピーク
「ランドブリーズ6」



コールマン
「タフワイドドーム300」



モンベル
「ムーンライト7」



小川テントキャンパル
「スクートDX6」

●フライシートの形状

次にドームテントのフライシートについて見ていきましょう。機能や材質については、先に述べた通りです。ここでは、その形状とその機能性について述べていきます。

まず、フライシートは入口(前室)もふくめて全部(裾は除く)を覆う「フルタイプ」のフライであることは絶対条件と書きました。その理由はいくつかあります。

まず、耐候性。要するに天気に対するものです。雨を遮る、日光を遮る、保温する、風を受け流す等の機能がここでは求められます。

「雨を遮る」については、防水性のトコロでも述べたように、多くの場合ウォールとフロアの縫い目には防水加工はされていません。つまりここに雨が当たるとその縫い目から水が浸入してきます。それを防ぐためにもこの部分がフライに覆われていることが必要となります。

「日光を遮る」については、「スリーブタイプの問題」でも挙げましたが、フライとウォールの間の隙間の空気をよどみなく流して行くことが必要となるわけです。

「保温する」は、スノーフライを使うか、フライの裾を雪で覆ったり、落ち葉で覆ったりして空気の流入を防ぐことでデッドエアを作り出すことが保温に繋がります。かつて解体して広げた段ボールを縦長に切って、それをぐるっとテントの周りに立ててピンで留めて、風の侵入を防いだことがありました。効果は・・・という、余りに寒くて、また比較のしようがなかったので解りませんでした。普通のドームテントで雪中キャンプをする場合は、雪のブロックを積んだ壁でテントの周囲を覆うことで風がフライの裾から入るのを防ぎます。

最後は「風を受け流す」です。基本的にドームテントは曲面で構成されていますから、家型テントのように「面」で風に正対して踏ん張る必要はありません。ドームテントでも小型～中型のものであれば問題ないでしょうが、大型の背の高いドームテントだと、ポール強度やフライシートの形状が耐風に大きく影響します。特に前室部分がオーニングとなっているテントはオーニングの面に傾斜があっても基本的には平面ですので、もろに風圧を受けています。開閉する際には注意が必要です、ポールの材質や構造がヤワだとつぶれてしまいます。三角形に張り出したモノの方が風を切ってくれるのはいうまでもありません。オーニングの面では風を受けないようにします。

●ドームテントのグランドシート(ボトム)

家型テントのグランドシートではなく、ドームテントのフロアの下に敷くシートのことです。テントの下にグランドシートを敷くようになったのは、いつの頃からでしょうか。今は有名メーカーのカatalogにもその商品が掲載されています。

どうして、テントの下にシートを敷くのでしょうか。汚れ防止? 防水対策? 保温性アップ? 何れもピンと来ません。この本を書いた

めにいろいろと調べていたところ、なるほどという記事に出会いました。それは「それまでテントのフロアはPVCが主役だったが、ドームテントが主流になってから、軽量化のためにナイロンやポリエステルに防水加工したものを使うようになった。PVCに比べて薄目のテント底に不安を感じたのとそれを保護するためにグランドシートを敷くようになった」とのことです。なるほど。

でも、前述のちゃんとしたテントメーカーならボトム(テントの床・底)に適した厚さの素材を使っていますし、防水性能もそう簡単に劣化することはないはずです。モンベル150デニール、The North Face 70デニール、スノーピーク300デニール、コールマン210デニールとなっています。

そういえば、ウチのカブ隊もブルーシートをフロアの大きさに揃えて折って敷いています。まあ、ウチの場合は経年劣化によりフロアの防水性能が劣ってきたための対策です。よく見るとフロアから大きくはみ出しちゃっています。それじゃだめでしょう。それだと水を招き入れちゃうでしょう。ったく。

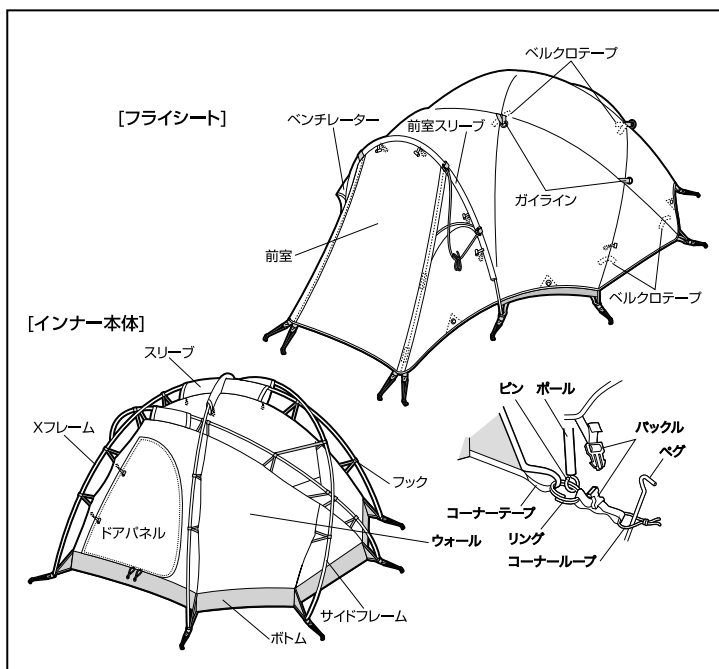
●テント火災対策

一昔前のアウトドアブームの時は、テント火災のニュースをいくつか聞いたものですが、最近はほとんど聞きません。それは、テント生地に防燃加工や難燃加工が施されているものが多くなったからでしょう。カブやボーイのキャンプでは、テント内で火気を使用することはないでしょうが、この難燃加工・防燃加工も購入の際のチェックポイントの1つです。

ちなみに、テント火災を防ぐには・・・

- テントとテントの間隔は6メートル以上あけること。
- 小さいテントの中ではストーブやランタンなど火気を使用しないこと。
- テントの中ではタバコを吸わないこと。
- テントの近くに緊急の消火用水として水を入れたバケツを用意すること。

●図2-1-7 ドームテントの各部名称(スノーピーク・ランドブリーズ)



●防水スプレーは撥水剤

通常防水液(防水スプレー)として売られているのは撥水剤です。撥水处理はテントの防水性を補強するもので、撥水性が弱くなるとテントの防水性にも影響します。フライシート表面の水が水滴になって落ちずに、生地上で広がり濡れるようだったら撥水剤を塗ります。



○万一火事になったら直ちにテントから脱出すること。防燃加工や難燃加工がされていないものは、あっという間に燃えてしまう。身の回りのもの持ち出そうなんて考えてはいけない。ということです。これも覚えておいてください。テント生地に防燃加工や難燃加工が施されているいないに関わらず、これは守っていきたいものです。

●メンテナンス性を考える

テントを長持ちさせるには、使った後のメンテナンスが大切です。この作業がたいへんなモデルだと、メンテすることが億劫になるので（私がその典型）、できるだけメンテナンスが楽なテントを選ぶってコトも大切です。

ポイントは、洗っても大丈夫なもの、リペアがしやすいもの、カビが生えにくいものです。そんなものを選びましょう。

メンテナンスについては、P.000 を参照してください。

カビは絶対に生やしてはいけません。これはくれぐれも守るようにしてください。ジャンボリーから帰ってきてコンテナを空けたらカビだらけだった・・・はよく聞く話です。

よく「ナイロンだからカビは生えないもんねー!」と言っている輩がおります。確かにその通りで、ナイロン自体にカビは生えません。カビが生えるのは、ナイロンに付いた食物カスや油脂などで、そこに生えたカビの菌糸がナイロンの織り目に入り込んでいくのです。そうなったら、もう洗っても落とせません。高圧洗浄機でも試しましたが、ダメでした。しばらくしたらまたそこからカビが生えてきてしまいました。・・・ということがないように、絶対にカビを生やさないようにしましょう。もし貸し出してカビを生やされてしまったら、新品を買ってもらいましょう。その位の意識を持ってテントは管理してください。



04

ナイフ・刃物

野営法研究会 STEP1 §7 HO



◆ ナイフ・刃物を持つということ

● 刃物は必要なのか

「もし、あなたが無人島に行くときに、ひとつしか道具を持って行けないとしよう。

その時選ぶ道具は、ナイフ以外に考えられないだろう。

1本のナイフが持つ潜在能力は計り知れないものだ。

それ自身の持つ本来の機能に加えて、ナイフは他のさまざまな道具を作り出すことができる。

もちろんそれには、ナイフを正しく理解し完全に使いこなすことができなくてはならない。」

これは、ある本の冒頭に書かれていたものです。ボーイスカウトのキャンプでは、ここまで深く考えることはまずありません。ですが、スカウトキャンプでは、必ずナイフを使う場面が出てきます。それは麻紐を切ったり、料理を作るだけかもしれません。いずれにしても、ナイフの使い方に慣れておかなければ、いざというときには、安全に、正しく、かつ自由自在に使いこなすことが大切であることには違いありません。

今では刃物で鉛筆が削れる子どもは稀となってしまっていますが、昔はどんな子どもでも「肥後の守」とか「ボンナイフ」などの簡単な刃物を1本筆箱に入れていて、あたりまえに鉛筆を削ったり木を削ったりしていました。それは生活の1部だったワケですね。スカウトであれば、昔の子供に負けず劣らずナイフを使いこなしてもらいたいですね。

さて、スカウトがナイフを持つことの意味は、ただ単に便利な道具だからということだけではありません。ナイフに触れて使ってみることで、ナイフ自体がどういうものであるかを知ることになります。どうやって持てばいいのか、どう使えばよく切れるのか、どうすれば危険か、どうすれば安全なのかなど、あらゆる基本は実際に使ってみることで得られます。そう「実践躬行」なんですよ。

今の世の中では、残念ながらナイフは危険なモノと捉えられてしまっています。それは、通り魔事件や傷害事件でナイフが使われ、そのことだけが意図的に幼稚なマスコミ（またしても登場）にクローズアップされて、「ナイフは凶器」というマイナスイメージを植え付けられるという、意識操作されてしまったからです。しかし、ナイフは本来はたいへん有用な道具なのです。いや、狩猟や野外生活等で必要だからこそ、このように発達してきたものなんですよ。ナイフが危険なのではありません。ナイフを正しく使うことを文化として伝えられない日本の社会、そして、それを本来の目的に使えない、正しく使うという意識や精神のない人間に持たせることが危険なのです。

禁止とか制限とかの言葉には日本の社会は敏感に素早く（かつ幼稚に）反応しますが、その一方で未だに「正しい使い方」が普通に学べるようにはなっていませんし、そのくせ、資格や許可証がなくても誰でも買えてしまうという、自転車と同じ状況がそこにはあります。

ナイフだけではありません。キャンプに必要なナタ、斧、包丁といった刃物も言い換えれば、使う人の意識次第で全て凶器に変身してしまうモノなのです。そうならないよう、しないように、社会の一員とし

て、その使い方を正しく身につけ、正しく使うと心に刻むことができ、初めて所持し身につけることができるようにしなければなりません。これは、隊長としての大変大きな務めです。

昔のボーイスカウトは、班長や先輩スカウトから、その使い方、研ぎ方、メンテの仕方、保管の仕方などを厳しく教えられました。ある程度のアウトドア技能とをナイフを持つに相応しい精神を身につけるまでは……そう2級スカウトになるまではナイフを持つことすら許されませんでした。でも今は、カブスカウトでも持てるようになってしまったんです。そのため、ナイフがより身近なものになりましたが、ナイフへの憧れ・思い、そして責任は希薄になってしまったようにも思えます。

今や、ナイフの使い方、ナイフを持つ者の責任と精神を伝統的に伝えられる班長は、いなくなってしまうました。それは、それを指導できる指導者がほとんどいなくなったからです。また、ほとんどの人が自己流です。私もきっとそうです。

それって野外活動のエキスパートを自負するボーイスカウトとしては、とてもよろしくないことですよ。ボーイスカウトでもまた「正しい使い方」を解説した本は作られていません。ごくたまに忘れた頃に「スカウティング誌」に1~2ページ掲載されるだけです。その記述は、たまに間違っていたりもします。

さて、「正しく使う」と簡単に言っていますが、どうやったら正しい使い方を知ることができるのでしょうか。確かに、本屋に行けば、ナイフの使い方が書かれたアウトドア指南書がいくつも置いてあります。しかし、それを見ただけでは、きちんと理解することは難しいですし、著者によって「正しい」の在り方・考え方が異なっていたりします。だとしたら、何を以てたたたたと「正しい」とすればいいのでしょうか。

ということで、ここではナイフやその他刃物について、指導者として、その所持と携帯法の基本的事項を知り、最も適した使い方（これを「正しい使い方」と言います）を身につけるため、更には、スカウトにきちんと根拠を理解した上で伝えるため、ここではページを多く割いて説明していきます。（でもこの本もそうなんですが、この様に「文章」で解説され、出版されるとそれが正解・標準になってしまう傾向があります。うん、気をつけなくちゃ!）

そうは言っても、いくら文章を読んで知識を仕入れたところで、それだけではダメです。実際に持って使って初めて伝わる感覚があるのですから。それが大切なんですよ。

● 知っておくべき「刃物」に関する法律

刃物は利用目的は実に多岐に亘っていて、私たちの日常生活・社会生活には欠かすことができないものとなっています。しかしながら、これらの刃物を自由に携帯（持ち運び）できるとすると、今度は意図的に凶器として使用する輩が出てくる可能性が高くなります。前述のように、刃物に対する教育が全くなされていない日本の社会では、凶悪犯罪等の治安上重大な結果を招くことにもなりかねません。犯罪以外の事故も起こることもあります。このような刃物の携帯に関し、公共の安全を確保するため、日本では、次の所持や携帯に関する規制があります。

それは、銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締法）と軽犯罪法という2つ

銃砲刀剣類等所持取締法（抜粋）

（平成 20 年 11 月 30 日改正、平成 21 年 1 月 5 日施行）

第 2 条

1. この法律において「刀剣類」とは、刃渡り 15 センチメートル以上の刀、やり及びなぎなた、刃渡り 5.5 センチメートル以上の剣、あいくち並びに及び 45 度以上に自動的に開刃する装置を有する飛出しナイフ（刃渡り 5.5 センチメートル以下の飛出しナイフで、開刃した刃体をさやと直線に固定させる装置を有せず、刃先が直線であってみねの先端部が丸みを帯び、かつ、みねの上における切先から直線で 1 センチメートルの点と切先とを結ぶ線が刃先の線に対して 60 度以上の角度で交わるものを除く。）をいう。

第 22 条

何人も、業務その他正当な理由による場合を除いては、総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 6 センチメートルをこえる刃物を携帯してはならない。ただし、総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 8 センチメートル以下のはさみ若しくは折りたたみ式のナイフ又はこれらの刃物以外の刃物で、政令で定める種類又は形状のものについては、この限りではない。



第 9 条

法第 22 条ただし書きの政令で定める種類又は形状の刃物は、次の各号に掲げるものとする。

1. 刃体の先端部が著しく鋭く、かつ、刃が鋭利なはさみ以外のはさみ。
2. 折りたたみ式のナイフであって、刃体の幅が 1.5 センチメートルを、刃体の厚みが 0.25 センチメートルをそれぞれ超えず、かつ、開刃した刃体をさやに固定させる装置を有しないもの。
3. 法第 22 条の総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 8 センチメートル以下のくだものナイフであって、刃体の厚みが 0.15 センチメートルをこえず、かつ、刃体の先端部が丸みを帯びているもの。
4. 法第 22 条の総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 7 センチメートル以下の切出しであって、刃体の幅が 2 センチメートルを、刃体の厚みが 0.2 センチメートルをそれぞれこえないもの。

軽犯罪法（抜粋）

（昭和 48 年 10 月 1 日改正）

第一条 左の各号の一に該当する者は、これを拘留又は科料に処する。

- 二 正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他の人の生命を害し、又は人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具を隠して携帯していた者
- 三 正当な理由がなくて合かぎ、のみ、ガラス切りその他他人の邸宅又は建物に侵入するのに使用されるような器具を隠して携帯していた者
- 四 生計の途がないのに、働く能力がありながら職業に就く意思を有せず、且つ、一定の住居を持たない者で諸方をうろついたもの
- 五 公共の会堂、劇場、飲食店、ダンスホールその他公共の娯楽場において、入場者に対して、又は汽車、電車、乗合自動車、船舶、飛行機その他公共の乗物の中で乗客に対して著しく粗野又は乱暴な言動で迷惑をかけた者
- 七 みだりに船又はいかだを水路に放置し、その他水路の交通を妨げるような行為をした者
- 八 風水害、地震、火事、交通事故、犯罪の発生その他の変事に際し、正当な理由がなく、現場に出入するについて公務員若しくはこれを援助する者の指示に従うことを拒み、又は公務員から援助を求められたのにもかかわらずこれに応じなかつた者
- 九 相当の注意をしないで、建物、森林その他燃えるような物の附近で火をたき、又はガソリンその他引火し易い物の附近で火気を用いた者
- 十一 相当の注意をしないで、他人の身体又は物件に害を及ぼすおそれのある場所に物を投げ、注ぎ、又は発射した者
- 十四 公務員の制止をきかずに、人声、楽器、ラジオなどの音を異常に大きく出して静穏を害し近隣に迷惑をかけた者
- 二十 公衆の目に触れるような場所で公衆にけん悪の情を催させるような仕方であり、ももその他身体の一部をみだりに露出した者
- 二十二 こじきをし、又はこじきをさせた者
- 二十三 正当な理由がなくて人の住居、浴場、更衣場、便所その他人が通常衣服をつけないでいるような場所をひそかにのぞき見た者
- 二十六 街路又は公園その他公衆の集合する場所で、たんづばを吐き、又は大小便をし、若しくはこれをさせた者
- 三十一 他人の業務に対して悪戯などでこれを妨害した者
- 三十二 入ることを禁じた場所又は他人の田畑に正当な理由がなくて入つた者

ナイフの携帯について

- ① ナイフやカッター、剃刀、多徳ナイフはもちろん、缶きり、千枚通し、ナタ、カマ、鍬・鋤、斧、バット等、使い方次第で凶器になり得る物はたとえ小さな物でも理由なく携帯しない。必要な場合は、指導者等からの集会の指示・連絡によって通知した上で、鞘やケースに納めるか、刃を厚手の布でくるんできっちりと保護するなどの対応をして、露出しないようバッグ等に入れて携帯する。
- ② たとえば、ごく小さなミニチュアナイフでも、それが人を傷つける事が可能な形状で有れば、ネックレス・キーホルダー・携帯ストラップや、ザックのジッパーに取り付けたりして持ち歩かない。

- ③ たとえ正当な理由があっても、充分な梱包をせずに、ナイフをケースに入れず、ポケットに入れたりバッグに入れて持ち歩かない。また、車のダッシュボードやドアポケットに無造作に積んではならない。
- ④ キャンプサイト内では、シースナイフやフォールディングナイフをベルトにつけたケースに入れて活動してもよい。また、フォールディングナイフであれば、刃を収納したならば、作業の間一時的にポケットに入れることはかまわない（ただし、ケースにしまう習慣をつけること）。シースナイフのシースをベルトにつける場合は、腰の横（側部）とし、決して腰から前にはつけてはならない。使用しない時は、ベルトやポケットから外し、バッグ等に収納する。



の法律による規制です。

①銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締法）第22条

「何人も業務その他正当な理由による場合を除いては刃物の長さが6cmを超える刃物を携帯してはならない。」

違反は1年以下の懲役または3万円以下の罰金に処せられます。

②軽犯罪法 第1条第2号

「正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他、人の生命を害し、または人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具（凶器）を隠して携帯していた者」

……は拘留または料科に処せられます

*刃物の寸法は示されていませんので、たとえ小さなものでも軽犯罪法上その対象となります。

この法律の用語の解説をしますと

「**刃物**」とは人を殺傷する能力のある片刃または両刃の硬質性の用具を言います。日常生活でその用途が認められているものであっても刃長サイズにかかわらず、理由のない持ち運びは全てが規制対象になり得ます。

「**凶器**」とは、本来人を殺傷するために作られた凶器のほか、使用方法によっては人を殺傷することができる器具（例えば、はさみやツールナイフ等）も含まれます。（小さいからといってツールナイフ・アーミーナイフや10徳ナイフなどを、アクセサリ感覚で持ち歩くことも、場合によっては取締りの対象になり得ます。

つまり、これらの規制は「人に危害を及ぼせない」ためにあるものです。意図するしないに関わらず、危害の可能性をできるだけ排除することがその根本にあるのです。ですから、私たちボーイスカウトは、『ナイフを必要とするスカウト活動で使用する』という正当な理由で携帯・携行することはできますが、その場合でも、実際に活動の現場で使用する時以外は、きちんとしたケースに入れた上でバッグの奥にしまう等の対応をしなければなりません。

●持ち運ぶ「正当な理由」とは

この2つの法律でいう持ち運びの「正当な理由」とは、「通常人の常識で理解できる正しい理由」という意味です。

①正当な理由とされる場合の例

- ・ナイフ等刃物を使用する活動のために、自宅とその活動の間を持ち歩くこと。
- ・買ったナイフを自宅に持ち帰ったり、修理のためにメーカーや販売店に持っていくこと
- ・釣りやキャンプで使うための往路、復路など
- ・ナイフメーカーがナイフを売るためにディーラーにナイフを運ぶ
- ・板前さんが家と店の往復で自分の包丁を持つ
- ・お料理教室で使う
- ・ホームパーティーで使う
- ・山菜採りで使用する

ただし、このような正当な理由である場合でも、その理由を具体的に説明・証明できることが大切です。理由を具体的に示せないばかりに、軽犯罪法違反として警察に逮捕されるということも現に起こっています。ここにその対応をいくつか挙げてみます。

- ・釣り、キャンプ、山菜取りなどに持っていく場合
 - ➡同行者の証言や他の荷物で証明できるはず。
- ・買った刃物を持ち帰る
 - ➡箱やパッケージなどに入っているだろうから、何時ごろこの店でいくらで買ったといった状況を明確に言えれば問

題ないと思うが、領収書やレシートがあると更によろしい。

- ・研ぎ屋に持って行くとき、持って帰るとき
 - ➡なるべく事前に電話連絡して、万が一職質を受けたときは電話で証言してもらうようにしておく。
- ・お料理教室やホームパーティー
 - ➡やはり、適時電話連絡して他の人に証言してもらえるようにしておく。

・ボーイスカウトの活動

➡実施計画書や活動案内（ナイフ等刃物の使用が明記されたもの）を所持する。

②正当な理由とされない例

- ・護身のため、と言って持ち歩く
- ・ミニチュアナイフをファッション感覚で身につけて歩く
- ・ナイフショーに客である自分がコレクションナイフを持っています
- ・ナイフ愛好家たちがナイフを持ち寄りナイフを見せ合うために集まる
- ・車や家の鍵と一緒にキーホルダーにつけて持ち歩く

などが挙げられます。

軽犯罪法では人の身体や生命に害を与える刃物などの武器を「正当な理由無く」と「隠して」持ち運ぶことを禁止しています。

「隠して携帯する」とは、自宅又は居室以外の場所で、手に持ったり、身体に帯びるなど直ちに使用できる状態で、人目につかないよう隠して身辺に置くことをいいます。（刃物等を人目に触れにくくして持ち歩いたり、車内に隠し持ったりすると、隠して携帯していることになる場合があります。）

「**隠して**」という要件があるので、ネックレスやキーホルダーにぶら下げていれば違法ではないようですが、たとえそれが銃刀法に違反しないナイフだとしてもそれを正当な理由無く携帯していれば「隠し持っている」こととなります。

繰り返しますが、これらの規制は「人に危害が及ぼせない」ためのものですので、意図するしないに関わらず、危害の可能性をできるだけ排除することがその根本にあります。

つまり、ナイフ等の刃物を携帯する者には、他の人への危害の可能性を最大限無くするため義務があることを心に留めなければならないのです。ですから、いくらボーイスカウトの制服を着ているからといって、シースナイフやフォールディングナイフをベルトにつけたケースに入れて繁華街を歩いたり、ケースに入れずむきだしのままポケットに入れたりするのは、当たり前ですが、軽犯罪法に抵触します。同様に、自動車の中に無造作に置いたり、ダッシュボードのようにすぐに取り出せるところに置くこともダメです。これは本人にその意志がなくても犯罪に荷担する、犯罪を助長していることとなります。刃物を持つということは、それほどまでに重大なことなのです。ボーイスカウトの制服は、水戸黄門の印籠ではないのです。逆に敢えてこまですることがボーイスカウトとしての名誉を保つために求められているのです。

●「所持」と「携帯」の違いについて

「**所持**」とは「そのものを自己の支配し得るべき状態に置くことを言う。」とされています。「所持」の態様としては「保管」「携帯」「運搬」などがあります。単に自分のモノとして「所有」するだけでなく、他人のナイフだとしても、それを預かったり、修理のために委託されたナイフを保管する場合も該当します。またナイフを購入し、あとで所持していることを忘れてしまった場合でも所持となります。

「携帯」とは屋内、屋外を問わず、所持者自身が手に持つか、または身体に帯びるか、これに近い状態で現に携えていると認められるような場合をいいます。「携行」は携帯して移動することですが、ほとんど同義で使用しています。

ただし、日常生活を営む自宅や居室内での携帯は、この法律でいう「携帯」にはあたりません。移動可能な自動車の中にナイフがあれば、それは携帯となります。

●「刃渡り」と「刃体の長さ」とは

「刃渡り」とは刀剣類の刃長および穂長の総称で「刃長とは、刀、剣、なぎなた、あいくちおよび飛び出しナイフについての概念で、それぞれ棟区（むねまち：刀身の峰部のくぼみにかかる箇所）から切っ先までを直線に測った長さをいい、穂長とは槍についての概念で、そのけら首（塩首）から穂先までを直線に測った長さをいう」とされます。

「刃体の長さ」は刃物に使われ、その測り方が総理府令で定められています。「刃物の切っ先（刃体の先端）と柄部における切っ先にもっとも近い点とを結ぶ直線の長さを測ることとする」とされています。普通のナイフなどは刃の先端からヒルトまでを測れば良いのです。刃の形が湾曲していても直線で計ります。

「スケルトンナイフ」や「共柄切出し」の測り方は習慣的に測っている刃長と異なりますので注意が必要です。「刃体と柄部の区別が明らかでない切り出し、日本かみそり、握りはさみなどの刃物は、刃物の両端を結ぶ直線の長さを測り、その長さから8cmを差し引く」とあります。実際に刃のついている部分が5.9cmだったとしても全長17cmの刃物は8cmをひいた9cmが法律上の刃体の長さとなります。刃長6cm以下の刃物をもっていったつもりが、実際は違いますので、注意が必要です。

●「刃体」の長さの計り方

銃刀法では、ナイフ等の刃物は「刃体」の長さで規定しています。実際に刃が付いている部分の長さではありません。また、刃渡りとは右図の「B」を指しますが、刃物に関しては「刃渡り」は使いません。

【計測の方法】

右の「銃砲刀剣類所持等取締法施行規則」第102条(下枠内)によって、その測定方法が決まっています。

第1項の「刃物の切先(a)と柄部(b)(c)における切先に最も近い点とを結ぶ直線の長さを計ることとする。」を、シースナイフで説明すると、ヒルトが斜めになっているため(b)の方が(c)よりも切先(a)に近い。そのため赤の矢印のように(a) ↔ (b) = (A)の直線距

離を刃体とします。(B)の長さではありません。

間違えやすいのは、実際に刃がついているエッジの弧の部分(a)↗(d)を計って刃体としてしまうことです。また緑の矢印(a) ↔ (d) = (D)も違います。この長さが6cmだとすると、(A)は当然それ以上となり、銃刀法に抵触してしまいます。

●自由に携帯できる刃物は・・・ない！

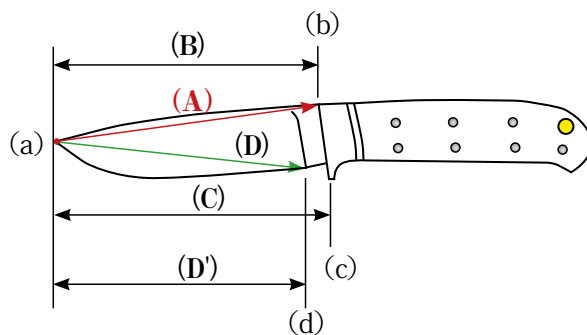
これまで述べてきたように、包丁、ナイフ、はさみ等の刃物は、仕事や日常生活を営む上での道具として必要なものであることから、所持すること自体は禁止にはなっていませんが、正当な理由なく刃物を外に持ち歩くなどして携帯する行為は、人の生命、身体に対する侵害を誘発するおそれが高いので禁止されています。

刃体の長さが6cmを超える刃物は、業務その他正当な理由による場合を除いては携帯することはできません。しかしながら制令で定められた種類、又は形のものについては、この限りでないとされています（銃刀法22条）。

これらを整理しますと、次の刃物は「銃刀法」上は、正当な理由がなくても自由に携帯することが認められています。ただし、「軽犯罪法」では刃物の寸法は考慮されません。人の生命を害し、または人の身体に重大な害を加えることを防止するといった観点での法律ですので、携帯については、2つの法律において何れも「正当な理由」が必要になります。

【銃刀法 第9条等】

①刃体の長さが6cm以下の刃物は、正当な理由があれば携帯できます。ただし、飛び出しナイフは例外で禁止されています。



●図2-4-1 ナイフの刃体の長さの計測について

（刃体の長さの測定の方法）

第百二条

法第二十二條の内閣府令で定める刃体の長さの測定の方法は、刃物の切先（切先がない刃物又は切先が明らかでない刃物にあつては、刃体の先端。以下この条において同じ。）と柄部における切先に最も近い点とを結ぶ直線の長さを計ることとする。

2 次の各号のいずれかに該当する刃物については、前項の規定にかかわらず、当該各号に定める方法により計ることとする。

一 刃体と柄部との区分が明らかでない切り出し、日本かみそり、握りはさみ等の刃物

刃物の両端を結ぶ直線の長さを計り、その長さから8センチメートルを差し引く。

二 ねじがあるはさみ

切先とねじの中心とを結ぶ直線の長さを計る。

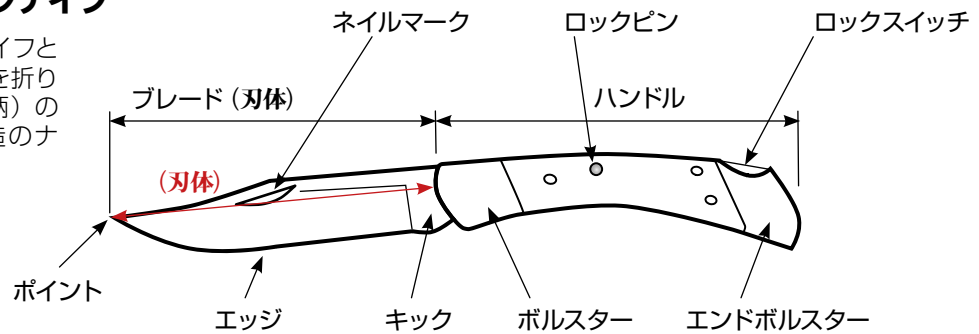
- 刃体の両端に柄がついている等のため前二項に規定する測定の方法によりがたい刃物にあつては、前二項の規定にかかわらず、刃先の両端を結ぶ直線の長さを計ることとする。
- 刃先の両端を結ぶ直線の長さが第一項又は第二項に規定する測定の方法により計った刃体の長さより長い刃物にあつては、第一項又は第二項の規定にかかわらず、刃先の両端を結ぶ直線の長さを計ることとする。



刃物の種類と各部の名称

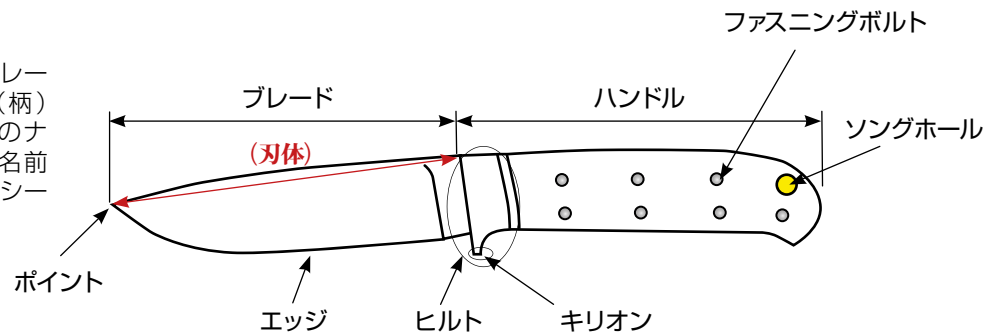
●フォールディングナイフ

フォールディングナイフとは、ブレード(刃)を折りたたんでハンドル(柄)の溝に収納できる構造のナイフです。

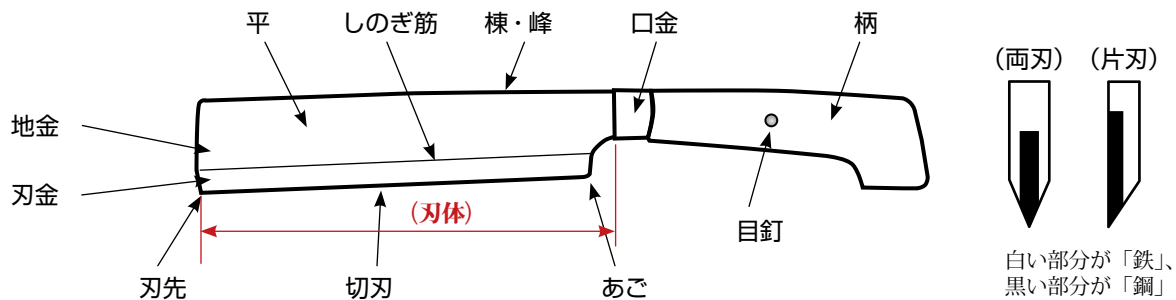


●シースナイフ

シースナイフとは、ブレード(刃)とハンドル(柄)が一体となった構造のナイフです。ちなみに名前はナイフを入れる鞘「シース」からつきました。

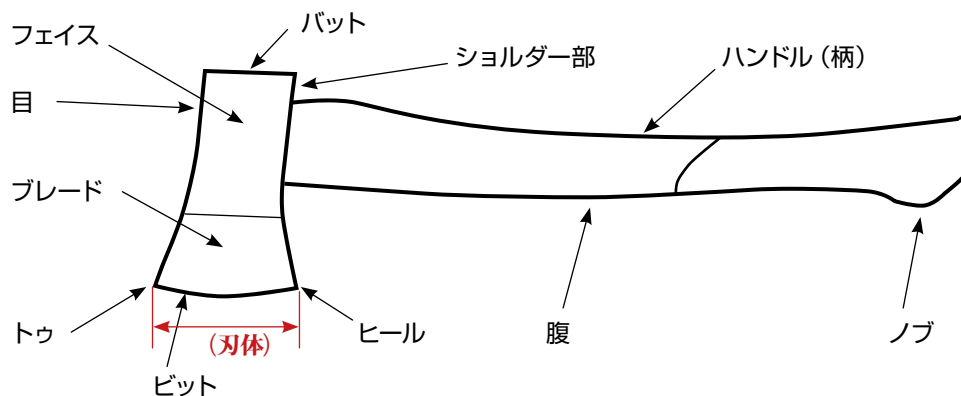


●鉈 (ナタ)



ちなみに「両刃」は主に薪を割るために使い、片刃は主に枝を払ったり切ったりするのに使う。

●斧 (オノ・アックス)

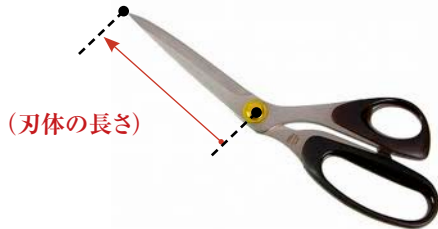


②刃体の長さが6cmを超える刃物でも、次のものは正当な理由があれば携帯できます。

・ハサミ

刃体の長さが8cm以下のものは携帯できます。

刃体の長さが8cmを超え、その先端が著しく鋭く、かつ刃が鋭利なハサミは携帯は禁止です。



・果物ナイフ

刃体の長さが8cm以下で、刃体の厚みが0.15cm内で刃体の先端が丸みを帯びているものは携帯できます。



・折りたたみナイフ

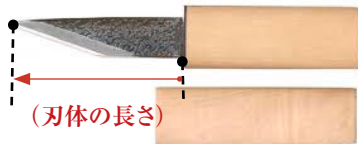
刃体の長さが8cm以下のものは携帯できます。

刃体の長さが8cmを超えときは、刃体の幅が1.5cm以内で、刃体の厚さが0.25cm以内、かつ開いた刃体をさやに固定させる装置を有しないものは携帯できます。



・切出しナイフ

刃体の長さが7cm以下で刃体の幅が2cm以下、かつ刃の厚みが0.2cm以下は携帯できます。



③キャンプなど、屋外での調理・食事に使用する包丁は、移動中、思いもよらない様な危険な目に遭わないためにも、包丁ケースに入れたり、厚手の布でくるんできっちりと保護するなど、すぐに取り出せない状態になっていなければなりません。

④はさみやカッターなどの文房具でも正当な理由なくしてすぐ使える状態で携帯してはいけません。ペンケースや裁縫箱のような収納容器に入れて携帯します。

⑤正当な理由で出かける時であっても、クルマの助手席やグローブ

BOXなど、すぐ手の届くところに置いてはいけません。梱包してバッグに入れ、荷室に置くなどの運搬状態にしておきます。

というように、次項でも示しますが、**正当な理由がない場合に携帯できるナイフ・刃物は「ない」**のです。

●管理・梱包に関する法的根拠

ここまで、刃物の所持と携行について説明してきました。ここからは、どのように所持・携行するかについて説明していきます。

刃物を携帯する場合は、現場に着くまでは**厳重な梱包**が必要です。充分な注意をはらって**厳重に梱包**したり**ケース**などに入れて**安全対策**をとった上で、他の人に簡単に使われないように、ナイフであれば必ずハバザックやバックパックの奥にしまい、また、包丁・ナタ・オノはケースに入れ鍵がかかるボックスなどに更に入れて、刃物が表に現れないようにしてはじめて持ち運びが可能になります。

業務その他正当な理由で持ち歩いているときに「厳重に梱包していない」という理由で違法になることはありませんし、また、業務その他正当な理由が無いのに持ち歩いて、「厳重に梱包している」から適法になるということもありません。過去に、料理人がビニール袋に包丁を入れて地下鉄に乗っていて、急ブレーキをかけた拍子に隣の人にそれが刺さってしまったという事件がありましたが、容疑は過失傷害罪であって銃刀法違反ではありませんでした。こんなことが起こらないよう、安全に梱包して運搬をする必要があるのです。

また、家で保管する場合にも同様のことが言えます。ナイフであればカギのかかる引き出しや金庫に保管します。スカウトが使用するものは保護者が責任をもって保管します。活動で必要な場合は、保護者が引き出しや金庫から取り出し、右の遵守項目を確認させた後に手渡し、活動から戻ったら再度遵守事項が守れたかを確認し収納し施錠する・・・等のルールを隊や団で設けて、きちんとした管理を周知徹底することが望まれます。

包丁・ナタ・オノ等は、これでもできる限り鍵がかかる物置にボックスに入れて保管するようにしてください。ズサンな管理で持ち去られた刃物が何かの事件で使用された・・・などということがないよう、十分に注意して管理したいものです。

また、活動の場で使う場合も「使ったままにしない」「必ず身に付ける」等、自分の管理下に置いておく等の取り扱いが必要です。

これは、ボーイスカウトだから行うというものではありません。自分そして他人に対して危害を及ぼさないためのスカウトとしての義務です。銃と違って刃物の管理責任については、一般社会に周知されていないのが現実ですが、これらのことは刃物を持つ人が負うべき「義務」なのです。敢えて「義務」としているのは、実は、この刃物の運び方を規定している法律はないからなのです。ないからこそ、それを自らに課することが大切になるのです。良き社会人を育てる「ボーイスカウト」であるからこそ、ここまで敢えて「行っていること」が求められるのです。きちんと管理すること、これがボーイスカウトの名誉です。

●スカウティングにおける刃物の取り扱い

繰り返になりますが、スカウティング活動で使用するナタ・斧・ナイフ・包丁は刀剣類には該当しませんので、これらを「所持」することは禁止されていません。ですが、ナタ・斧・ナイフ・包丁を**業務**や**その他正当な理由なく「携行」**することは禁止されています。「スカウト活動のため」携行することは正当な理由にあたりますので、携行することは認められています。

この「スカウト活動のため」というのは、**刃物を必要とする訓練・活動を指します**。この場合には、**実施計画書**や**活動案内**(ナイフ等刃物



の使用が明記されたもの)を所持することを徹底してください。

刃物を必要としない活動の場合は「正当な理由」に当てはまりませんので、もちろん携行してはいけません。

ここまで、ナイフについていろいろとかつくだと書いてきましたので、みなさんには「スカウトが刃物を持つ」ことの真意が十分に伝わったと思います。

ナイフを所持・携帯そして使用するに当たっては、必ず隊長からスカウトに「ナイフの取り扱い方」と「使う技術」と「身につけるべき精神と責任」つにいてきちんと説明し、そして、スカウトがそれを確認した上で、「正しく使う」旨の宣誓(約束)をさせてください。そのスカウトがナイフを持って使うことを隊長が認めたら、スカウトへの信頼と共に下記の「ナイフ使用許可書」を発行し、ナイフを使用する時には常にその許可書も携帯するように指導してください。この手続きは、形式的なものかもしれませんが、スカウトへの意識付けという意味からは、非常に大切なものとなります。これには隊長とスカウトとの信頼関係がなければなりません。それがなければ、この許可書はただの紙になりさがってしまいます。

私たちはスカウトです。スカウトには名誉があります。名誉を最大限重んじるのがスカウトなのです。その使い方を正しく身につけると、正しく使うと心に刻むことができ、初めて所持し身につけることができる資格があるということを、改めてスカウトに伝えていきたいと思います。

連盟歌「花はかおるよ」の歌詞をよく見てください。

♪花はかおるよ花の香に、日は輝くよ日のひかり
われらに名誉のおもきあり、
かおりか・光か ああ名誉、
名誉、名誉、重きぞ名誉
(フレフレフレ)
スカウトわれらの名誉ぞ重き

その意味は・・・

もし、花に香りがなかったら、その花は形だけだ。
もし、日に光がなかったら、それは太陽じゃない。
もし、スカウトに名誉がなかったら、それはスカウトではない。
いちどは名誉があったとしても、今ではそれを失ったとしたら
今はもうスカウトではない。
スカウトにとって「名誉」は「光」であり「香り」である。
香りも光もないようではスカウトではない。
なぜ？世の人々を楽しめます力もないし、誠実もないからだ。
ただ形だけにすぎないからだ。

ナイフ使用許可書

日本ボーイスカウト 第 団

氏名 _____

君がナイフなどの刃物の使用と保管に関する自分の責任を理解していると認め、スカウト活動中にナイフの携行とその使用を許可します。

隊長 _____

印

- ☐ ハンドブックにある刃物の取り扱い方法をよく読み、安全で正しい使い方を学びます。
- ☐ 刃物を使うときは、つねに用途にあった正しい使用、手入れを心がけます。
- ☐ 刃物を遊び道具にしません。
- ☐ 刃物の安全な取り扱いに関する規則を守ります。
- ☐ ナイフは、鍵がかかる引き出し等に保管します。
- ☐ ナイフを活動に持って行く時は、バックに入れます。ポケットに入れたり、ベルトに付けません。
- ☐ アウトドアコードを確認し、自然を大切にします。

◆ 雷は気まぐれ・・・いや、傍若無人だ！

今まで、キャンプ中に何度も雷に遭ってきた。キャンプ中じゃなかったが、3m離れた電柱に落ちたこともあった。ガラガラ・ドスンなんてもんじゃなく、バリバリ・ガシャン・ドカンであった。全身の毛が逆立ったのを覚えている。それは恐怖からではなく、辺り一面に静電気が起こっているような感覚だった。

キャンプ中の雷でイチバン怖かったのは、行方市で行った第17回茨城県キャンポリーの時である。ものすごい雷雲が近づいてきて、ちょうど開会式に辺り構わず落雷の嵐となった。たまたま運が良くて会場への落雷は避けられたが、スカウトや指導者に落ちていたらと思うと、今更ながらにゾウとする。そういえば、第4回関東キャンポリーでも雷が、第11回日本ジャンポリーでは3SC隣接のFMのアンテナに落ちたよなあ。

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり放電する現象だ。放電する際に発生する音が雷鳴で、光が電光だ。雲と地上の間で発生する放電を対地放電（対地雷、落雷）といい、雲の中や雲と雲の間などで発生する放電を雲放電（雲間雷）という。

雷を発生させる電荷の分離は、雲の中で「あられ」と氷晶（小さい氷のつぶ）の衝突により起こると考えられている。湿った空気が激しく上昇して上空の低い温度の層に達すると「あられ」や氷晶が多量に発生し、雷雲となる。このため、雷は上空高くまで発達した積乱雲で発生し、雷雲の背丈は夏は7km以上、冬は4km以上となる。（「気象庁」HP）

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder1-0.html> より）

恐ろしいのはこの落雷で、なんと1億ボルトにも達する非常に巨大な電圧だという。

雷を避けるには、できるだけ低い所にかがむ、金属のものを外す、棒などは持たない・・・などと言われているが、それは単なる確率論であって、雷はどこにでも落ちるのである。つまり、野外を教場としている我々ボーイスカウトの指導者は、きちんとした対処方法を身に付けていなければならないということである。それが、野外活動を推進していく者、そして大切な子供を親から預かる者としての義務であろう。

これから雷について述べていく。これは平成8年に発行された「tent ex vol.5」での実験やその他いくつかの資料を要約したものである。

●高い所に落ちるのは本当なのか？

➡ × 低くても雷は落ちる！

雷は高い所に落ちるもの・・・と昔から言われているが、そんなことはない。確かに高い所の方が落ちる確率は高いが、絶対に低いところに落ちないという確証はどこにもない。

実験では、⑦背の高い大人+椅子に座っている大人+背の低い子供、④立っている大人と+釣り竿を持っている子供、②立っている大人と伏せている大人の3パターンを行った。いずれも一番高いところには当然落ちたが、⑦の座っている大人と立っている子供、④の立っている大人にも落ちた。また、②の伏せている大人にも雷は容赦なく襲いかかった・・・というからホントに怖い。

●テントやタープに逃げ込むと安全なのか？

➡ × テントやタープには安全ではない！

キャンプをしている時に雷が近づいてくると、雨や風をしのぐこともあって、ついテントの中やタープの下に逃げ込みたくなるものだ。

しかし、それは大きな過ちだ。雷はテントにもタープの布にも落雷する。実験によると、テントやタープのポールに落ちて、そこから内部の人（マネキン）に放電（側撃）することが多かった。中にはテントやタープの布を突き抜けて中の人（マネキン）を直撃するものもあった。

●木の下は安全なのか？

➡ × 木の下には危険だ！

例えば草原に1本の木が立っていたとすれば、かなりの確率でそこに落雷するとのこと。木のそばに立ったら直撃こそは避けられても、側撃をくらう確率が高い。最低でも最も近くの枝から2m以上離れるべきだとのことだ。

林だったらどうか・・・。どの木に落ちるのが解らないということは、ロシアンルーレットと同じ状態だということ。

●車に逃げ込むと安全というのは本当なのか？

➡ ○ 金属部分触らなければ安全！

クルマに落雷したが、中的人是助かったという話をよく聞く。私もクルマを運転中に落雷に遭ったかもしれない。衝撃はなかったが電装品のパイロットランプがその瞬間にいくつか切れた・・・から。でもそれ以外には特になく、そのまま走り続けたので、「近くに落ちたのかな・・・？」程度の意識しか持たなかった。で、クルマの中はかなりの確率で安全だ。それは金属で覆われているから、たとえ落雷があつたとしても、導体であるボディ表面を伝わってタイヤから地面に逃げていく。「かなりの確率で」であって100%ではないのは、大きな窓やサンルーフのあるクルマだと、ガラスに落雷しそのまま車内に電流が走ることもあるらしい・・・からだ。

●金属や濡れた服に落ちやすいのは本当なのか？

➡ × どこにでも雷は落ちる！

雷が鳴り出したら、時計、ネックレス、ベルトなど身につけている金属をすぐに外せ・・・とほとんど常識のように言われているが、実験の結果は金属を付けても付けていなくても全く関係なく落ちたそう。

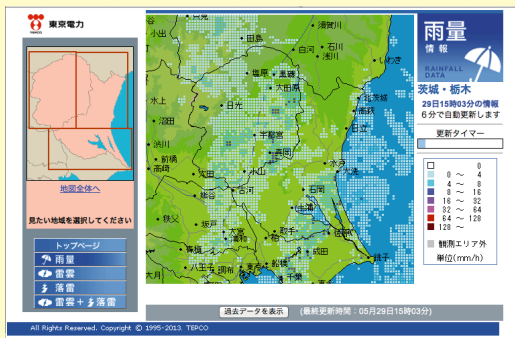
●結論

雷が近づいてきたら、速やかに、建物内の安全な場所（窓から遠いところ）、やクルマの中に逃げ込もう。



● PC

雨量・雷観測情報 <http://thunder.tepco.co.jp>



tenki.jp <http://tenki.jp>



下の表は日経トレンド「2010年9月号「最強のアプリ&フリーソフト」」の的中率データだ。○は、雨が降り出す時間帯なども含めて予報が正確に当たった場合で、×は完全に外れた場合。△は雨が降り出す時間帯がずれていた場合や、「晴れのち曇り・一時雨」の予報で雨だった場合などを示している。

的中率が最も高かったのは、「ウェザーニュース タッチ」。雨が降り出すタイミングを1時間単位で的中させるなど突出した精度を見せ、前述の7月4日の天気もほぼ読み切った。2週間の通算的中率はおよそ8割。天気図、レーダーなど予報以外の情報も充実しているのが大きな特徴だ。

情報量、精度ともに申し分なく、高い知名度に見合った実力。予報は1時間ごと、3時間ごと、向こう1週間の情報が確認でき、地名や駅名を入力してピンポイントの予報を表示したり、よく行く地点を登録しておいてすぐに呼び出したり、といったこともできる。全国の天気図やライブカメラも確認でき、情報量は随一。

しかしアップデートでユーザー同士の交流を重視した「ソー

● Android

- 雨雲・雷レーダー (kusamochi.net) 無料
- そら案内 for Android (日本気象協会) 無料
- 雨雲マップ (beta) (Nayutaya Inc.) 無料
- ウェザーニュース タッチ (Weathernews Inc.) 無料

● iPhone, iPad

- tnki.jp (日本気象協会) 無料
- ウェザーニュース タッチ (Weathernews Inc.) 無料
- そら案内 (feedtailor Inc.) 無料

「シャトル機能」の強化が行われた結果、ユーザー登録が必須となり、天気予報がすぐに表示されなくなるなど、単に天気を確認したいだけの人にとっては使い辛いアプリになってしまった。以前より操作手順が増えており、多機能ではあるが、使いこなすのは難しくなってる。

手軽さはなくなったが、現在でも天気予報アプリとしての多機能性や情報量は随一。iPhone版とアンドロイド版がある。

ウェザーニュース タッチのような機能がないぶん、シンプルな使い勝手なのが「そら案内」だ。的中率はウェザーニュースと同等のおよそ8割。設定した地点の向こう3日間、1週間の予報を表示するのが基本で、現在地に関しては3時間ごとの予報も確認できる。

予報の精度はウェザーニュース タッチと同水準で、作りがシンプルなので使いやすい。ひと通りの情報は確認できるので、手軽な天気予報アプリで十分ならこちらを選ぶのもいいだろう。ただ、例えば東京都内の週間予報は東京、大島、八丈島、父島の4地点しか表示できない（ウェザーニュースは10地点以上）など、細かな情報が欲しい人には不満な面もある。iPhone版のほか、iPad版も公開中（無料）。

先の2つのアプリのデータソースである日本気象協会が公開した天気予報アプリが「tnki.jp」で、的中率は同じだ。こちらも登録した地域の3時間ごとの天気や週間予報を手軽にチェックする事が出来る。また、時間ごとの天気の変化も1つの画面で確認できる。

天気予報の表示をタップすると今日と明日を切り替えられ、画面を左右にスライドすると登録地域が切り替わる。また、地域登録は下部メニューの「設定」から行う。そこでは天気概況、注意報、速報は「その他」のメニューから確認できる。

ただ、下部の広告が目立ち、誤タップしやすいのが難点だが、アメダスや雨雲の動き、海上の天気や地震・津波情報、世界の天気など豊富なデータが確認できる。

使いやすさと多機能性を両立しているお天気アプリだ。（「日経トレンド」net」<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/pickup/20100809/1032613/?P=1> 他より改）

●主な天気予報アプリの「星取り表」

アプリ名	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目
AccuWeather.com Quick	×	○	△	△	△	×	△	○	○	×	○
Fizz Weather	×	○	△	×	×	△	△	○	○	○	○
WeatherBug	×	○	×	○	×	×	△	○	○	○	○
Weather Pro	×	△	×	×	△	○	○	○	×	○	○
ウェザーニュース タッチ	○	○	○	△	△	△	○	△	○	○	○
そら案内	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○	○

◆ バックパックのフィッティング方法

バックパックを背負ったときのフィッティングは、メーカーとモデルによって異なります・・・が、だいたい同じ思想の下に作られていますので、基本を知っていれば応用できます。個々では、モンベルのホームページからスーパーウィッシュボーン採用モデル(3Dフィット・ステータス内蔵)、容量50リットル以上の大型バックパック用のフィッティングについて紹介します

●正しいフィッティングとは

まず、正しくフィッティングすると、肩の負担が軽くなり、歩行時にバランスが取りやすくなります。これは長距離を歩けば歩くほど重要になってきます。ポイントは背中にジャストフィット!です。バックパックが「ジャストフィット」している状態とは、バックパネルとショルダーハーネスが体に隙間なく接している状態のことを言います。肩への負担が軽減され、上半身の自由度が高まると同時に、重心位置が体に近くなるので歩行時のバランスがとりやすくなります。この「ジャストフィット」を得るためのフィッティング方法をご紹介します。

モンベルの大型バックパックは、あらかじめ平均的な日本人の体格に合わせて内蔵フレームの曲げ具合などを設定していますが、以下の手順で調整を行うことで、さらなるフィット感を実感いただけます。

● STEP1 ヒップベルトの位置を決める。 (身体にバックパックのサイズを合わせる)

【はじめに】

あらかじめ各バックルに通したテープ類は適度に緩めておきます。体のラインを明確にするため、できるだけ薄着での作業をおすすめします。

①使用時に近い状態を再現するため、10kg程度の荷物をバックパックに入れます。

②バックパックを背負い、腰骨の左右の出っ張りをランバーパッドの中央部で包み込むようにしてヒップベルトを固定します。(上)

- ・ランバーパッドの位置は、前後に動かすことができます。
- ・腰骨にしっかりフィットするように調節します。(下)

③ショルダーストラップを引いて、ショルダーハーネスが身体に密着するようにします。



④この状態で、ショルダーハーネスの付け根が背中から浮いていないかを確認します。(上)

- ・もし浮いている場合は、いったんバックパックを下ろし、ヒップベルトの位置を上にはずします(これにより背面長を短くすることができます)。(下) そのうえで、もう一度、手順【2】から行います。



※ヒップベルトの位置を移動することで、背面長を自分の体格に合わせることができます。最大可動域は約65mmです。

● STEP2 3D フィット・ステータスの曲げ具合を調整する。

①バックパックを背負い、ヒップベルトとショルダーストラップを締めた状態で、背中和バックパックの間にすき間がないか、鏡に写して確認します。(できれば、ご家族やご友人に手伝ってもらってください)

②すき間があるようなら、内蔵フレーム(3D フィット・ステータス)をバックパックから取り出し、脚などを使って曲げ具合を調整します。一度に大きく曲げるのではなく、少しずつ曲げるのがコツです。

- ・向きを間違えずに3D フィット・ステータスをバックパックに戻します。バックパックを背負った状態で、背中がバックパックのバックパネルに隙間なくぴったりとフィットしているか確認します。
- ・隙間がある場合はもう一度、手順①のチェックから始めます。





◆ バックパックのメンテナンス

● STEP3 スタビライザーを調整する。(BP を身体に引き寄せる)



スタビライザーは、バックパックの揺れを抑え、体に引き寄せる機能を持ちます。

最後に、このスタビライザーを調整すればフィッティング完了です。

①ショルダースタビライザーを引きま

す。



- このとき、写真にある A のバックルが肩の一番高い所より前側（胸側）にあるように調整します。



②ヒップスタビライザーを引いて、バックルを引き寄せます。



③チェストサポートを鎖骨から約 5cm ぐらい下で留めます。

- ゴムが少し伸びる程度にストラップを調節すると、胸の可動域を妨げることなくフィットできます。

以上で、バックパックのフィッティングは完了です。

ただし、各ハーネス類の長さは身につけるウェアによっても変わりますし、背負って歩いているとパッキングされたギアが上手く納まって隙間ができたり、ハーネスがゆるんだりしますので、その都度の微調整が必要です。

苦しくならない範囲でしっかり締めてください。

※安価なものの中には、ヒップベルトが短かったり、位置の調整機能が省かれているものがあります。安いからといって安易に選ばず、必要な調整機能が付いているバックパックを多少高くても選んでください。ジャンボリーに行くぞ、ベンチャーで移動キャンプをするぞ・・・と予定・計画している場合は特にこの点が重要となります。

バックパックは他のウェアやギアに比べて、こまめにメンテナンスを実施する必要性を感じていない方も多いのではないのでしょうか。しかしバックパック本来の強度や機能性を維持し、快適に使用を続けるためには、こまめなメンテナンスと適切な保管がとても重要です。

これから、使用による損傷や経年劣化が表れやすいポイントをご紹介します。何らかの不具合が生じた際には、メーカーのサービスセンターに相談してください。特に縫製の修理には、耐久性を持たせるために高い技術が必要ですのでお気軽にご相談ください。

●バックパックの点検ポイント

①ジッパー

砂など異物がつまっていないか確認する。

また、トッブリッド(雨蓋)への荷物の詰め過ぎにもご注意ください。ジッパーの開閉時に強い負荷がかかるのでジッパー周辺のパーツの損傷をまねく。

②ショルダーハーネスと本体の付け根

ショルダーハーネスと本体とを縫い合わせている生地周辺は、荷重により大きな負荷がかかり続けるポイント。縫製箇所の糸が切れるなどの不具合が発生していないかどうか確認。

③背面パッド

嫌な臭いや汚れはないか？

背面パッドは大量の汗を吸い込むので「洗濯」しないと汚れが蓄積する。汚れたまま長期保管すると、ウレタンフォームの劣化をまねき、進行するとポロポロと崩れる状態になる。「洗濯」と適切な「保管」により、快適に使い続けることができる。

④フレームの末端と地面が当たるところ

安定性を高めるためにフレームを使用しているモデルでは、バックパックを勢いよく地面に置いたり引きずったりすると、フレームの末端と地面という固いもの同士が擦り合わされる状態となり、強い負荷が生じる。フレーム末端あたりの生地に破れがないかどうかチェックする。

⑤バックル

確実に固定でき、パチンと外せるか？

劣化すると素材の弾力性が低下し、緩んで固定しにくい状態になる。また登山靴の踏みつけによるひび割れが生じていないか確認する。一部の交換用バックルはアウトドアショップで取り扱っているの

⑥荷室の生地（内側）

荷室の内側の生地にコーティングの剥がれやベタつきが発生していないか？

コーティングは生地の強度を補強する役割を果たすが、製造されてからの年月や使用状況により劣化が進行する。ベタベタしたりぼろぼろと剥がれる状態になると、他の生地（ショルダーハーネスや縫い付け部等）のコーティングにも同様に劣化の進行が考えられる。そのまま使用を続けるのは危険なので買い替え時期の目安としよう。

⑦コード類

コードの表面が摩耗していないかチェック。表面ニットが擦り切れ、内側の芯が露出すると使用に支障をきたす。

⑧生地表面

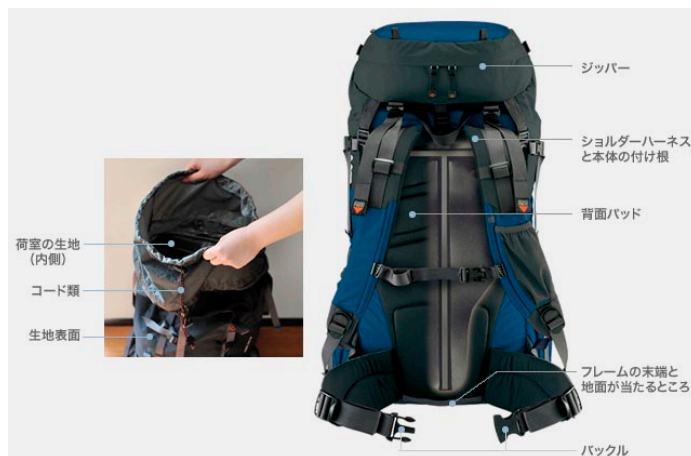
ドロ汚れなどが残ったままになっていないか？

生地に汚れが付着した状態で長期保管すると、生地の劣化が早まる。「洗濯」と適切な「保管」により、長く快適に使い続けられる。

●「洗濯」から「保管」までの手順

長く快適に使い続けるためには、適切な「洗濯」と「保管」が欠かせません。汚れたまま長期的に保管すると、各パーツの劣化を早めるうえにカビや臭いの原因にもなります。一度発生したカビを除去するのは非常に困難です。

また、生地のコーティングの経年劣化からくる商品の寿命は、5～8年程度がひとつの目安ですが、メンテナンスによりコーティングの状態が良好であればそれ以上のご使用も可能です。



①準備

外せるパーツは洗濯前に外し（フレーム、ショルダーハーネスやウエストベルトのアダプタ等）、ジッパー類は開けておきます。



②部分洗い

目立つ汚れがあれば、水で濡らしたあと中性洗剤をつけてスポンジやブラシでこすります。



③押し洗い

洗いおけや浴槽にバックパックがちょうど漬かるぐらいの水を入れ、中性洗剤を加えます。バックパック全体を浸して、押し洗います。

汚れがひどい時にはぬるま湯を使用すると効果的です。



④すすぎ

押し洗いがくまなく済んだら、すすぎに入ります。洗いおけを傾げるか、浴槽の水をぬき、汚れの浮いた水を取り除いたあと、もう一度きれいな水にバックパックを浸し、押し洗います。同じ要領で水が濁らなくなるまで十分にすすぎを繰り返します。



⑤水気をきる

バックパックを逆さまにし、水気をきります。背面パッドは水を含みやすいので手で押しながら水を押し出します。

⑥乾燥

陰干しします。紫外線は生地にダメージを与えますので、直射日光を避け、風通しの良いところで乾燥させます。

ウレタンフォームやフレームを挿入する生地の際間には水分が残りやすいので十分に乾燥させましょう。

⑦保管方法

直射日光を受けるところや車内、屋外倉庫等、高温多湿になる場所はさけて、風通しの良い日陰で保管しましょう。



◆ スピングバッグ (寝袋・シュラフ)

私が最初に買ってもらったスリーピングバッグはバーレル型(封筒型とマミー型の中間タイプ)のサマーシーズン用のものでした。もちろん中綿(フィル、断熱材=インシュレーションという)は化学繊維。今、考えると、よくまあこんなモノで寝ていたなあと思えるシロモノです。でも当時はそれを持てることが自慢でした(あ、夏の間だけね)。春秋は毛布の中にそれを入れて寒さを防ぎ、耐寒キャンプでは、ただひたすら朝になるのを凍えて待ちました。寒くてウトウトするのがやっとなりました。

スカウト時代はそれで過ごしましたが、指導者になってまず買ったギアがスリーピングバッグでした。それでもダウンには手が出なくて、モンベル製のタフバッグ #4 でした。これはフィルがデュボンのダクロンフォロフィルⅡという中空の化学繊維で、当時としては画期的なモノだったんです。30年経った今でも夏のキャンプではそれを使っています。さすがに寒い時期にはダウンのスリーピングバッグにしてしまいましたが・・・。

●スリーピングバッグの選択のポイント

スリーピングバッグの暖かさは、内部の暖まった空気をいかに冷たい外気から隔離するかで決まります。つまり、ロフトと呼ばれる中綿の厚さとそこにどれだけの温かい空気(デッドエアー)をため込めるかなのです。この暖まった空気が動いて移動してしまうと、そこに新たな空気が入ってくるので、それが暖まるまでは温かく感じないわけです。そのため、デッドエアーをどうやって閉じ込めておくかが、そのままスリーピングバッグの進化の歴史となっています。

①形は → サイドジッパー付のマミー型

スリーピングバッグは、形で分類すると基本的に「マミー(ミイラ・人形)型」と「レクタングラー(封筒)型」があります。

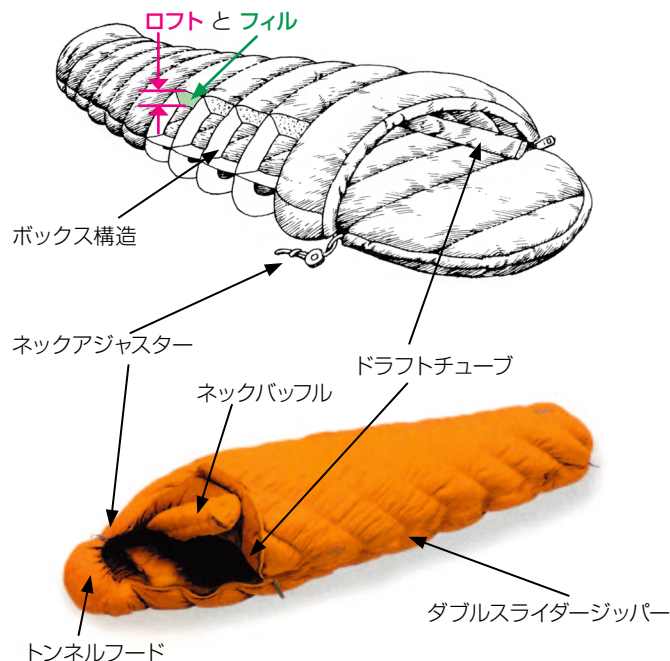
基本的にマミー型の表地はリップストップナイロンという薄くて丈夫な繊維でできていて、必要最小限の容積であるため、軽くコンパクトになります。

レクタングラー型はゆったりとして寝心地も良いのですが、表の素材がコットンのように厚手のモノが多く、また、足元に十分なゆとりがある構造のため、重くかさばるので、バックパックにパッキングして移動するには向いていません。オートキャンプ用と思ってください。個々ではマミー型について説明していきます。

②フィルは化繊かダウンか → 化繊かな!

中綿(フィル)で分類すると、化学繊維(ポリエステル繊維)とダウンとに分けられます。

湿気が多い日本では、フィルは濡れてもすぐ乾きロフトが保てる化学繊維の方がいいでしょう。この繊維は、主にポリエステルで、繊維の中心に穴が空いている中空繊維と呼ばれているものが使われます。昔はこの穴にデッドエアーをため込んで・・・と言っていました。



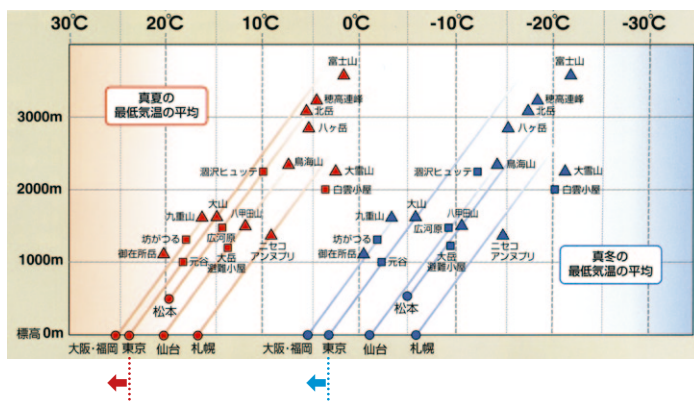
化学繊維でロフトをかせぐ簡単な方法は、たくさんの量を詰め込むことです。ですが、そうすると高張ってしまいます。繊維を太くすると、弾力性が高くロフトはかせげますが、繊維の間隙がスカスカでデッドエアーが保てませんし、コンパクトになりません。細くするとデッドエアーはため込めるしコンパクトになるのですが、今度は弾力性がなくなってロフトが保てず、使っているうちにへたって薄くベチャンコになってしまいます。

そのため、今はその両方をブレンドしたモノが多く使われています。中でもエグゼロフトと呼ばれるものは、太い繊維を縮れた細い繊維を巻き付けることでデッドエアーをよりため込めるので、すぐ競れた保温性を持っています。

もう1つの素材が「ダウン」です。ダウンとはグース(ガチョウ)やダック(アヒル)などの水鳥の胸あたりに密生している綿羽(ダウンボール)のことを言います。化学繊維と同様にダウンにもピンからキリまであります。グースダウンはデッドエアーをため込むダウンボールが大きく、こしがあって絡まりにくく、軽量で高いロフト復元力を持っているため、ダウンの王様と呼ばれています。また、ダウンだけではロフトが保てないので、フェザーというダウンボールの外側の羽根を混ぜ込むのが普通です。フェザーが多いとロフトは保てますが、デッドエアーが少なくなるため、その混入率は約10%程度がベストと言われています。

ただ、ダウンは濡れてしまうとダウンボールがくっついてしまいデッドエアーをため込むことができなくなります。これが濡れに弱い

ダウンスリーピングバッグ	化繊スリーピングバッグ
+ 化繊より軽くて温かい	- ダウンより重い
+ 収納性が高い・コンパクト	- ダウンよりかさばる
+ 通気性に優れている	- 通気性はやや低い
+ 適切な手入れで長持ちする	- ダウンよりへたりが速い
+ すぐに暖くなる	- 暖まるまで時間がかかる
- 濡れた状態では、性能を発揮できない	+ 濡れた状態でも防寒性能が70%維持される
- 細かい手入れが必要	+ 手入れが簡単
- 湿気を吸収する	+ ほとんど湿気を吸収しない
- 乾燥にかかる時間が長い	+ 乾燥にかかる時間が短い



と言われる理由です。そのため、雨が少ない季節に使用するのがいいでしょう。

スカウトのキャンピングのシーンでは、濡れに強く、比較的安価である化繊の製品がいいでしょう。

③暖かさの指標は・・・

昭和の頃は、スリーピングバッグは使用季節によって、夏用、3シーズン、冬用と大ざっぱな区分で売られていました。しかも、その区分は明確な規格があった訳ではなかったようです。

今では、使用できる温度域を科学的な根拠に基づいた「クロー値」という指標を使って設定しているメーカーが多くなりました。

モンベルでは「使用可能温度域 (Limit)」と「快適睡眠温度域 (Comfort)」の2つ温度指標で、ノースフェイスでは「最低温度規格 (Limit)」で表示しています (カタログのアイコンでは (Comfort) も表示されている)。

使用可能温度域：疲労回復に必要とされる6～8時間の睡眠が可能な温度の目安。

快適睡眠温度域：下着などのままでも、8時間以上快適な眠ることができる温度域。この温度域が製品選びの目安となります。

どのように見るかは、前ページの右下の表「緯度別気温表」をご覧ください。赤は最も高い平均最低気温の月、青字は最も低い平均最低気温の月を地点別に図示したものです。

例えば、東京での夏のキャンプで使うスリーピングバッグであれば、赤文字の「東京」を見ます。グラフを見ると最低気温は24℃であるので、24℃が快適睡眠温度域となっている製品を、ハケ岳であれば6℃なので、6℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つけます。

冬の東京でキャンプをするのであれば、グラフを見ると最低気温は3℃であるので、3℃が快適睡眠温度域となっている製品を、ハケ岳であれば-15℃なので、-15℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つけるわけです。

1つのスリーピングバッグでオールシーズンをカバーすることはできません。冬にもキャンプをするからと言って、冬用のスリーピングバッグで間に合わせようとすると、他の季節は暑くて苦労します。「使用する地域」の「使用する時期」の最低気温を考えて選ぶことも1つの方法ですが、ボーイスカウトのキャンプは、1ヶ所だけで行われるワケではないので、その当たりを考慮してモデルを選ぶことが重要です。

結局は3シーズンモデルなのだ (笑)

④快適な眠りを得るために

3シーズンのものを選んだけれど、「耐寒キャンプや雪中キャンプをやることになった」としたら、新たなそれに耐えうるスリーピングバッグを買わなければいけないのでしょうか？ それも1つの方法ですが、下図のような方法もあります。「スリーピングバッグのレイヤード」です。スリーピングバッグの外側をスリーピングバッグ・カバーで包み、を内側にインナー (シーツ) を入れて使うのです。

特にダウンのスリーピングバッグの場合は、なかなか洗うことができないので、このレイヤードを使うことを勧めます。ゴアテックスなどの防水透湿性の素材でできているスリーピングバッグ・カバーは、テント内の結露からスリーピングバッグを保護し、また保温効果もあります。インナーは、スリーピングバッグの汚れを防ぎ、起毛したものであれば寒いときにも温かく眠れます。夏はコットンやシルクの肌ざわりのいい物を使うといいでしょう。

●スリーピングバッグの使い方 TIPS

適切なスリーピングバッグを手に入れても、それだけでは良い眠りを得るために十分ではありません。どこで何の上にとどのように寝るかを考えることも重要です。また、スリーピングバッグ自体は熱を発生しません。人が発する熱を保持することができるだけです。これを踏まえて使い方を考えていきましょう。

①スリーピングマット

冷たい地面や循環する空気は体温を奪います。スリーピングバッグがどんなに高品質でもこれは必要です。良質のスリーピングマットを使用することで、熱伝導による体温の低下を軽減できます。

②風をよける

テントを使わない場合は、風で凍えることがあります。

+5℃のときに弱い風 (25km/h) が吹くと、すぐに0℃と同じような寒さを感じます。このため、できるだけ風に当たらないようにします。テント、ツェルト、または大きな岩などで風をさえぎります。夜を過ごす場合は、適切に風の当たらない場所を選択します。

③乾燥した高性能な下着と寝間着

乾燥した性能の高い下着や靴下を履くと、さらに暖かくなります。また、足先部分に乾燥した衣類を入れると、デッドエアが更に増えて保温性・防寒性が高まります。

④帽子

フードがないスリーピングバッグでは、頭だけが外部に露出されます。頭部が冷えると、短時間で身体全体が冷えます。このため、寒冷期には帽子を着用します。帽子は非常に効果的な防寒具です。

⑤正しく食べる

移動キャンプや寒冷期のキャンプでは、多くの体力を消耗します。十分な「燃料」を補給しないと、適切な体温を保つことができません。食糧計画をきちんとたてて必要な種類と量の食事を摂ります。

⑥水分を摂る

寝る前に1日に必要な水分を摂取したかを確認します。脱水状態の身体は、熱を発生させることができません。スリーピングバッグに入る前に、1杯のお茶やホットチョコレートで暖まりましょう。

⑦アルコールは飲まない

指導者の場合ですが、アルコールを摂ると、一時的に暖かく感じられますが、すぐに体温が低下してしまいます。気温が低い場合は、アルコールを飲まないようにします。

⑧キープドライ

衣類やスリーピングバッグ (特にダウン) は、濡れると防寒性能が低下します。また、汗で濡れた衣類を着たまま、スリーピングバッグの中に入らないようにします。これが「寝間着」に着替える理由です。雨が降っていない限りスリーピングバッグをテントの上などに置いて干すようにしてください。また予備の衣類を乾燥した状態に保つことも大切ですので、防水素材でできた袋に収納しておきます。

インナー (シーツ)

スリーピングバッグ・カバー

